

KYOTO SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



SCHOOL GUIDE BOOK 2024

京都産業大学 大学院案内 2024



Message

CONTENTS

01	Message	23	先端情報学研究科
02	研究・産学連携	25	生命科学研究所
03	経済学研究科	27	経済学研究科(通信教育課程)
05	マネジメント研究科	29	京都文化科学研究科(通信教育課程)
07	ジョイント・プログラム	31	教育研究支援
09	法学研究科	32	進路・就職支援
13	現代社会学研究科	33	学費・経済支援
15	外国語学研究科	34	入試情報・長期履修制度
19	理学研究科		

Society5.0時代を牽引できる人材を育成します

京都産業大学は、建学の精神に掲げる「将来の社会を担って立つ人材の育成」を目的とした教育・研究を行います。本学大学院においても、高度な研究に裏付けされた教育を実施し、専門的な知識と技術を持つ人材を育成します。

近年、私たちを取り巻く社会は大きく、かつ急速に変容しています。内閣府は、2021(令和3)年度から始まる第6期科学技術・イノベーション基本計画において、大量のデータのやり取りを通じて仮想空間と現実空間を連携する「Society 5.0」を提唱しています。これからの社会は高度に機能化される一方で、複雑化し専門分野が細分化され、今まで以上に専門的な知識や技術を備えた人材へのニーズが高まっていきます。本学大学院においても社会の要請に迅速に対応し、学部で培ってきた基礎的な科学的思考力を土台として、技術革新や価値創造、社会課題解決などに求められる能力を涵養し、新たな社会を牽引できる人材を育成します。また、これからの予測が困難な社会で活躍するためには、卒業後も常に学び続け、最新の知識や技術を学ぶ必要があります。京都産業大学大学院で、高い専門性と生涯を通じてチャレンジし続ける探究心を修得してください。

学長 黒坂 光

Prof. Akira Kurosaka, Ph.D.
President, Kyoto Sangyo University

専門性を生かして社会を先導する人材を育成します

人口減少が続く日本において持続可能な社会を実現するには、高度な専門性を持つ人材が今後さらに必要とされ、その活躍の場は、ますます広がるでしょう。また急速な社会の変革に対応するには、専門性の深化に加え、分野横断的な視野の広さも必要とされます。

京都産業大学大学院では、学部教育で培った専門性をさらに深め、高度な専門知識を駆使して社会をリードする人材の育成を目指します。人文・社会・自然科学など幅広い学問分野を対象とする10研究科・14専攻が、伝統ある洛北上賀茂の地に集約され、優れた教員のもと、特色ある多様な教育・研究が行われています。研究対象は、世界に誇れる京都の伝統や文化、地域に密着した経済・社会学、デジタル社会を支える情報工学、宇宙の深淵から、生命を形作るミクロな世界の探索等、多岐に亘ります。今後は、One Campus 総合大学としての強みを活かし、複数の研究グループが連携することで生み出される文理融合的な新しい学術領域を発展させていきます。京都産業大学大学院では、多様な大学院生の受け入れ、高度な専門性をもつ職業人の育成強化、大学院生が行うグローバルな研究活動の支援を通して、自身の成長を実感できる充実した大学院教育をお約束いたします。

大学院長 横山 謙

Prof. Ken Yokoyama, Ph.D.
Dean of the Graduate Schools, Kyoto Sangyo University

研究・産学連携

研究成果の社会への還元

現在の大学には、教育・研究活動により得られた研究成果を社会に還元することに対して、大きな期待が寄せられています。本学は、この期待に応えるため、民間企業や国との共同研究・受託研究等を行い、その研究成果を積極的に社会に還元しています。このような実学志向の共同研究・受託研究等にも、大学院生は、研究指導教員の指導のもと、参画する機会があります。また、産学連携による研究成果の社会還元の指標の1つとして、特許があります。本学では企業との共同研究から生まれた特許の実用化による社会貢献が実りはじめています。大学で発明された特許には、少なからず大学院生の協力により得られたものもあり、共同発明者として、新たな技術の確立に寄与している大学院生もいます。研究活動を行う中で、共同研究・受託研究に参画することも、みなさんの研究活動の一環として役に立ちます。

科学研究費助成事業[科研費]

科研費は、全国の大学や研究機関における研究活動に必要な資金を研究者に助成する制度です。人文・社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を対象としており、専門分野の近い複数の研究者による厳正な審査を経たうえで採否が決定される「競争的研究資金」です。

科研費(2022年度)採択実績

研究課題件数 155件
受入金額 **339,485,754円** (基金継続課題含む)

最前線の研究課題に大学院生が従事

本学では博士後期課程において、リサーチ・アシスタント(RA)制度を導入しています。(詳しくはP31参照)。RAを担当する大学院生は最前線の研究課題に取り組み、受入研究員のもとで補助的業務を行うことにより、若手研究者として従事しています。

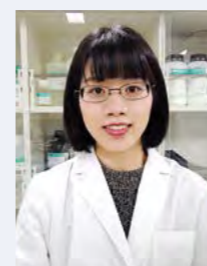
2022年度 科研費 研究課題(抜粋)

研究種目	課題名(研究代表者)
学術変革領域研究(A)	細胞の組織からの離脱と組織の修復を両立させる、細胞社会における細胞終焉機構の解明(生命科学部・川根 公樹)
基盤研究(B)	長寿社会における新たな保険理論と保険経営の研究—健康増進型保険の計量分析を軸に—(経営学部・諏澤 吉彦)
基盤研究(B)	MaaSのラストマイル移動支援にむけた移動情報利活用基盤(情報理工学部・河合 由起子)
基盤研究(C)	香港の野生マカクザルに関する民族霊長類学的研究による地域環境史の試み(現代社会学部・足立 薫)
基盤研究(C)	昭和10年代文部省の機関哲学と國體明徴政策の相互制約関係についての研究(法学部・植村 和秀)
挑戦的研究(萌芽)	翻訳異常を解消するリボソーム品質管理機構の個体内イメージング(生命科学部・三嶋 雄一郎)
若手研究	観光SNSに関する経済学的な研究:ヘドニックアプローチと家計調査による分析(経済学部・功刀 祐之)
若手研究	現代における〈流動的な演劇〉の実証的調査と分析理論の形成(文化学部・田中 里奈)

研究事例

RA経験から芽生えた研究者としての責任感と計画性

生命科学研究所 生命科学専攻 博士後期課程 3年次 宇賀神 希さん



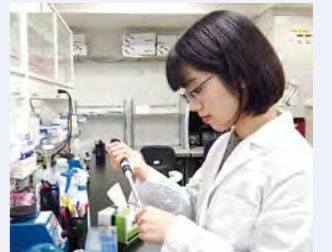
私は、細胞内でタンパク質を合成する装置であるリボソームに着目して研究に取り組んでいます。リボソームは複数のタンパク質とリボ核酸(RNA)からなる巨大な複合体です。近年、このリボソームにさまざまな化学修飾が生じることや、構成成分以外の他のタンパク質が結合する例が相次いで報告されてきています。このようなリボソームの“変化”はタンパク質の合成効率を制御する働きをもつことや、細胞内の異常を感知するセンサーとして機能

することが明らかになってきました。一方で、これまでは単細胞生物や培養細胞での知見が多く、私たちヒトを含む多細胞動物においてもリボソームに“変化”は生じているのか、どんな生理的意義があるのか、といったことについてはほとんど判明していないのが現状です。そこで、私は淡水性小型熱帯魚であるゼブラフィッシュをモデルとし、生体レベルでのリボソームの“変化”を調べています。リサーチ・アシスタント(RA)を志望したのは、研究職としての専門性を活かせることに魅力を感じたからです。学外でアルバイトをする場合に比べると、移動に時間がかからないため、研究の時間を有効活用することができます。また、給与が支給されることから、責任感を持って研究に取り組むことができるようになりました。限られた勤務時間内で、効率よく計画的に実験を進める習慣が身についたことも収穫です。

今後は、これまで行ってきた研究を論文としてまとめ、世界に発表することを第一の目標としています。また、他大学の先生や他の研究室の方々との共同研究を行うことにより、自分が理想とする研究者像を思い描くことができるようになりました。研究活動を通して知り合った優れた研究者の皆さんに一步でも近づけるよう、いっそう努力していきたいです。

大学院に進むと、周りはみな優秀な人ばかりで、自分の不甲斐なさで落ち込むこともあります。しかし、すばらしい人たちとの出会いを糧に、自分自身を成長させる機会に恵まれたことは非常に幸運であると思います。

未知の領域を探り、試行錯誤を繰り返す日々は楽しいことばかりではありませんが、困難を乗り越えた先に大きな達成感が待っています。こんなにも自由に自分のやりたいことを好きにだけできるという環境は大学院くらいではないでしょうか。研究してみたいテーマがある人、4年間の学部生活に物足りなさを感じている人、大学院や研究職に興味がある人は、思い切って飛び込んでみてはいかがでしょうか。挑戦してみたい気持ちがあるなら、チャンスを存分に活かして、研究に取り組んでみることをお勧めします。



Division of Economics

経済学研究科

現代社会の経済問題を客観的に分析・考察する

本研究科が目指すのは、現代社会が直面する経済的な諸問題を、客観的に分析・考察できる人材の育成です。修了後は、官庁や企業で活躍する高度専門職業人やシンクタンクに勤める研究者、高度で知的な素養を身につけた社会人となることを期待しています。創設以来一貫して、近代経済学をベースに多面的なアプローチが可能なカリキュラムを用意。最新の経済理論と分析手法を学ぶことができます。

研究科の特色

徹底した少人数教育で手厚く指導

きめ細やかな指導を基本とする充実した研究指導。授業科目も徹底して少人数教育を実施しています。

多彩な教員が多様なニーズに対応

多彩な教員を擁して幅広い専門領域の科目を配置。経済史から最新の経済問題まで、日本に限らず世界各国・地域について、大学院生各自のさまざまな研究ニーズに対応しています。

他学部出身者・社会人も基礎からサポート

他学部出身者・社会人の入学も歓迎。多様なバックグラウンドを持つ大学院生同士が切磋琢磨する知的な刺激にあふれた環境で研究を深めることができます。初学者でも経済学の基礎「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「計量経済学」を学修しながら、各自の研究テーマを追求し、2年間で修士論文を完成できるようサポートします。



研究紹介 Research

沈 政郁 教授

家族企業から読み解く資本主義のあるべき姿

皆さんは、家族企業と聞くとどんなイメージを持たれますか?少しネガティブなイメージを持つ方が多いと思います。学術の世界でも、企業が成長すると、所有と経営の分離は当然のごとく生じ、専門経営者が率いる非家族企業が資本主義を代表すると考えてきました。しかし、2000年を境にしてこの共通認識に疑問を抱く研究が現れ始め、その後の一連の研究によって米国と英国を除くと、世界的には家族企業が支配的な企業形態であり、平均的にみると業績も高いことが明らかになりました。

私は、博士課程の2006年に、家族企業の将来性に夢を抱き研究を始めました。家族企業研究の難点はデータの収集であります。博士論文を準備する際に、日本のすべての上場企業を対象にして1960年から2004年までの所有構造・役員構造・家族構造の三つのデータを構築しました。この大規模で長期間のデータは家族企業を研究する際にとてもユニークで貴重なデータであり、国際的にも高い評価を受け著名な研究者と共同研究をすることができ、世界のフロンティアで活動する意義や方法を学びました。

このように構築したデータを用いて、日本の婿養子慣習の経済的機能、同族企業と非同族企業の成長戦略と合併効果の比較、いつ家族企業から専門経営者にバトンを渡すべきか、なぜ日本では株を持たずに長い間創業家が経営を行うことが可能か等の研究をし、トップジャーナルに論文を掲載してきました。

家族企業研究の究極的な魅力は市場中心の資本主義のアンチテーゼになることです。最近の研究の成果は国ごとに異なる家族企業があり、そのベースになるのは文化・宗教・価値観・多様性であり家族企業の業績が高い要因であることです。市場とか効率性とかではないということです。

今の世の中は大きなパラダイムシフトの渦の中にあります。既存の当たり前がもはや当たり前ではなくなります。この時代に必要な能力はフロンティアを切り開く力です。一緒に知のフロンティアを切り開く冒険に旅立ってみましょう!

Economics Course
[Master's Program/Doctoral Program]

経済学専攻
[博士前期課程・博士後期課程]

Analyzing and Examining Contemporary Economic Issues Objectively

Division of Economics aims to foster professionals who objectively analyze and consider various economic problems facing the contemporary society. After completion, our graduates are expected to work as a specialized professional in government or corporations, a researcher at think-tanks, or a professional with advanced knowledge. Since its establishment, the Division offers multifaceted curriculum, based on the modern economics. Our graduate students are able to learn the latest economic theories and analytical methodology.

Graduate Division Program Description

Small Size Education and Close Supervision

Our Division provides close supervision and extensive support to graduate students' research. The graduate courses are offered in small class size.

Versatile Faculty Members Respond to Diverse Needs

Our Division consists of versatile faculty members and offers a wide range of specialized subjects, in response to diverse needs of our graduate students' research. We offer courses on economic history, the latest economic problems, not only in Japan, but other parts of the regions.

Supporting Students with no Economics Background and Business Persons from the Basic

We welcome applicants with a diverse range of backgrounds, individuals from other faculties and business persons. Graduate students deepen their research in a stimulating environment. Basic courses on microeconomics, macroeconomics, and econometrics are offered, allowing students with no previous knowledge of economics to seek for respective research theme and complete their Master's thesis within two years.



大学院生 INTERVIEW

宇田 有輝さん

経済学研究科 経済学専攻 博士後期課程 3年次

経営者と研究者、両方の道で社会貢献を

学部時代、現在の指導教員である沈政郁先生のゼミで実証研究という世界を垣間見て、そこで用いる統計学的手法を知り、もっと深く経済学を学んでみたいと思い、大学院進学を志しました。

博士前期課程を経て現在は、企業経済論という分野において、企業の多角化行動を分析しています。多角化とは、企業が成長する方法として新たな分野に進出することで、具体的には新たな製品を開発したり新たな市場を開拓したりすることを指します。多角化は、日本における成長戦略にとっても、企業にとっても、イノベーションを起こすために必須です。多角化の程度を最も端的に表しているものは、企業が行っている企業活動数(セグメント数)と定義できます。しかし、本当の多角化を意味するものは、その企業の属性によって大きく異なるため、数だけでは決められません。そこで、私は全ての企業活動を分類し、企業の多角化行動を考察することによって、日本において失われた30年の間に生じた企業行動の真の姿を描きたいと考えています。

大学院試験の準備をするなら、目指す分野の基礎知識や専門用語の英単語をマスターしておくのはもちろんですが、最も大切なのは自身の研究テーマを明確に持つことだと思います。学問の道は険しくて、研究を続けるうちに標高がわからない山を登っているような感覚に陥り、自信をなくすこともあります。しかし、自分の専門分野にプライドを持ち、一般の人にもわかりやすく説明できるようにすることを目指しています。将来は、経営者と研究者、両方の道を探求し、社会に貢献することが目標です。

教員研究テーマ Research Theme (s) ●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

加茂 知幸 教授 Tomoyuki Kamo Professor	一般均衡理論、数理経済学 General Equilibrium Theory, Mathematical Economics	北村 紘 教授 Hiroshi Kitamura Professor	市場成長の動学分析、垂直的取引制限の経済理論分析 Market Diffusion and Exclusive dealing
吉村 有博 准教授 Arihiro Yoshimura Associate Professor	計量経済学とノン-セミパラメトリック推測 Econometric theory and non-semiparametric inference	沈 政郁 教授 Jungwook Shim Professor	上場企業の長期データを用いた実証分析 (Family Business) Empirical analysis of family business using long term data on Japanese listed companies
栗田 高光 教授 Takamitsu kurita Professor	経済時系列分析 Time Series Econometrics	潘 聡 准教授 Cong Pan Associate Professor	消費者の意思決定に関する理論分析 Theoretical Analysis of Consumer Decision Making
小田 秀典 教授 Hidenori (Sobei) Oda Professor	成長分配理論、実験経済学、実験哲学、計算可能性 Growth and Income Distribution Theory, Experimental Economics, Experimental Philosophy, Computability	大西 辰彦 教授 Tatsuhiko Onishi Professor	地域産業が抱える諸問題について、中小企業論の視点から研究 Study various problems in local industries from the viewpoint of the theory of small business
千葉 早織 准教授 Saori Chiba Associate Professor	ミクロ経済学理論とコミュニケーション・情報・組織 Communication, Information and Organization in Microeconomic Theory	広田 茂 教授 Shigeru Hirota Professor	地域経済学、健康と社会経済因子の研究 Regional Economics, Health and Economy
池田 晃彦 准教授 Akihiko Ikeda Associate Professor	新興国の景気循環と金融危機 Business Cycles and Financial Crises in Emerging Market Economies	倉本 宣史 准教授 Takashi Kuramoto Associate Professor	まちづくり・地域政策に関する実態把握と実証研究 Field Studies and Empirical Analysis for Regional Public Policy (Town Planning)
寺井 晃 教授 Akira Terai Professor	マクロ経済学と日本経済、物価・期待インフレ率研究 Macroeconomics and the Japanese Economy, Inflation Expectations	寺崎 友芳 教授 Tomoyoshi Terasaki Professor	都市構造分析、地域経済分析 Analysis of urban structure, Analysis of regional economy
飯田 善郎 教授 Yoshio lida Professor	公共財の自発的供給問題についての理論および実験研究 Experimental and theoretical study of the voluntary contribution to a public good	大川 良文 教授 Yoshifumi Okawa Professor	貿易政策が経済・社会厚生に与える影響に関する理論研究 Theoretical study on the impact of trade policy on economic and social welfare
松尾 美紀 准教授 Miki Matsuo Associate Professor	人的資本、出生率に関するマクロ動学 Human capital, fertility, and macroeconomics dynamics	川越 吉孝 准教授 Yoshitaka Kawagoshi Associate Professor	国際貿易及び多国籍企業に関する理論的研究 Theory of International Trade and Multinational firms
八塩 裕之 教授 Hiroyuki Yashio Professor	税・財政が経済に及ぼす影響に関する実態分析 Empirical Analysis of the Effects of Taxes and Public Finance on the Economy	玉木 俊明 教授 Toshiaki Tamaki Professor	16—18世紀の北ヨーロッパ貿易史 History of North European Trade from the 16th through 18th Centuries
福井 唯嗣 教授 Tadashi Fukui Professor	個人属性の異質性とその変化を前提とした公共政策のあり方 Public Policy for Heterogeneous Individuals who Confront Lifecycle Uncertainty	齊藤 健太郎 教授 Kentaro Saito Professor	イギリス労使関係史、労働市場の比較史的分析 Labour history of Britain, Comparative studies in labour history
菅原 宏太 教授 Kota Sugahara Professor	地方分権下における地域間競争、地域間財政力格差 Regional Competition under Decentralization, Interregional Disparity in Fiscal Power	山内 太 教授 Futoshi Yamauchi Professor	日本における近世・近代村落社会経済史 Economic History of Early-Modern and Modern Rural Society in Japan
塩津 ゆりか 教授 Yurika Shiozu Professor	人口減少社会での社会保障・地域公共財の多様な担い手育成と経済成長 Economic growth and upbringing of various provider of social security and local public goods in population decline society	大坂 仁 教授 Hitoshi Osaka Professor	アジアの経済成長 Economic Growth in Asia
関田 静香 准教授 Shizuka Sekita Associate Professor	家計行動の実証分析 Empirical Analysis of Household Behavior	イケダ マリア 准教授 Maria Ikeda Associate Professor	東南アジアの持続可能経済発展、地域経済 Southeast Asian sustainable development and economic geography
武田 史郎 教授 Shiro Takeda Professor	排出量取引制度等の地球温暖化対策の分析、応用一般均衡分析 Climate Change Policy (Emissions Trading System), Computable General Equilibrium Analysis	岑 智偉 教授 Zhiwei Cen Professor	中国の経済成長と経済循環についての理論・実証分析 Theoretical and empirical analysis of China's economic growth and economic cycle
西村 佳子 教授 Yoshiko Nishimura Professor	金融教育と家計の資産選択行動 Financial behavior of households	後藤 富士男 教授 Fujio Goto Professor	北朝鮮を含む各種経済体制の比較研究 Comparison of Various Economic Systems Including North Korea
坂井 功治 教授 Koiji Sakai Professor	企業金融、金融機関、金融市場に関する実証研究 Corporate Finance, Banking, and Financial Markets	藤井 秀昭 教授 Hideaki Fujii Professor	エネルギー経済と持続可能な発展に関する研究 Study of Energy Economics and Sustainable Development
梶谷 真也 教授 Shinya Kajitani Professor	個人の時間配分と生産性・健康資本の格差、中高齢者の就業と認知能力・健康 Allocation of Time, Health Disparity and Inequality in Productivity, Labor Supply Behavior of the Middle/Aged and their Cognitive Ability and Health		

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- 20世紀初頭におけるイギリス労働市場—若年労働者と訓練を中心として—
- 日本の会計制度変更が多角化ディスカウントに与えた影響
- 日本の石炭輸入の現状について—グラビティ・モデルによる実証分析—
- 大学教育における専攻分野別賃金プレミアムの分析—
—個票データを用いたクロスセクション分析による賃金関数の推定—
- An Experimental Study of Income Redistribution
- 三十代母親の追加子ども数の決定要因の研究—日本少子化対策へのある提言
- 女性労働参加率の研究—中国の女性労働参加率は何故下がるのか—
- 中国における所得格差と最低賃金—最低賃金の上昇は所得格差を縮めるか—

取得可能な専修免許状 ■中学校教諭専修免許状(社会) ■高等学校教諭専修免許状(地理歴史・公民) **修了者数(2021年度)** ■修士(経済学) 1名 ■博士(経済学) 2名

※2022年度修了者なし

Division of Management マネジメント研究科

Management Course
[Master's Program/Doctoral Program]

マネジメント専攻
[博士前期課程・博士後期課程]

あらゆる組織に活かせる高度なマネジメント能力を修得

本研究科では、伝統的な企業経営学から新しい経営学まで幅広い領域を網羅し、それぞれ専門的に深く追究することができます。特に本研究科は、戦略、組織、マーケティング、イノベーション、会計、ファイナンス、ガバナンス分野研究の先駆けであり、学界をリードする存在です。あらゆる組織において問題解決に活かせる、高度なマネジメント能力を育成します。

Acquiring Advanced Management Capability Applicable to a Diversity of Organizations

The Division works on a wide range of traditional and emerging areas, such as business administration and business management, allowing our graduate students to engage in their research deeply. In particular, our Division has pioneered and been leading research on strategy, organization, marketing innovation, accounting, finance and governance. We foster advanced management capability that can be applied to solve problems.

研究科の特色

出身学部は不問、社会人、学び直しも歓迎

出身学部・学科・専攻の分野を問わず入学希望者を受け入れています。あらゆる学問領域をバックグラウンドに持つ学生・社会人・留学生に広く門戸を開き、社会が求める高度なマネジメント能力を養成します。マネジメントに関する基礎的知識を補う「リメディアル科目」を受講することもできます。

在職のままで学位取得ができる

土曜や夜間の開講等により、社会人が在職のままで学位取得を目指すことが可能です。企業をはじめ、さまざまな組織において、より高度なマネジメント能力が求められる状況下、社会人入学者のニーズにきめ細かく応えます。

最短3年間で2つの修士号を取得し、税理士試験3科目の免除

「ジョイント・プログラム(税務エキスパート)」とは、広い視野と知識、そして常に学ぶ姿勢を備えた税理士の育成および税理士資格取得支援を目的とするプログラムです。マネジメント研究科と法学研究科との連携により最短3年間で2つの修士号取得が可能で、税理士試験3科目(会計学1科目・税法2科目)の免除を国税審議会に申請できます。

Graduate Division Program Description

Welcoming Diverse Students, Working Persons, Regardless of Background Disciplines

The Division accepts diverse applicants, including international students and business persons, regardless of their undergraduate field of study, and fosters advanced management capability demanded by a society. Remedial courses are offered to assist beginning students in gaining basic knowledge on management.

Possible to Acquire a Graduate Degree while Keeping an Employment

Business persons are able to obtain a graduate degree while keeping their employment by taking courses at night and on Saturdays. The Division closely responds to needs of business persons who are required to hold the advanced management capability.

Two Degrees in Hand in the U.S. and Japan in Two Years

Our "Dual-Degree Program" aims to foster executives and business persons who are well-grounded and adaptive to rapidly changing contexts. Graduate students aim to obtain both a MBA and a Master's Degree (Management) simultaneously in two years, one semester at KSU, studying abroad to University of Missouri-St. Louis for one year, and then at KSU for one semester.

※税理士の資格取得を支援するプログラムについてはP7~8をご覧ください。



研究紹介 Research

松本 和明 教授

「研究は、倦まず弛まず」

かれこれ30年前の大学院に進学した春のことです。学部時代からお世話になっていた先生が、それまで小生のことを「松本君」と呼んでいたのが、「松本さん」に変わりました。その理由がわからず、おそろおそろ尋ねてみると、「大学院では同じ研究者どうしだから」とのこと、たいへん驚くとともに背筋が伸びた記憶があります。

また、小生の師匠(指導教授)の口癖が、「研究は倦まず弛まず取り組むことが大切で、たとえ時間がかかったとしても、続けていけば必ず成果がでる」です。小生の座右の銘としています。

専門研究者を目指す方はもとより、資格取得を目標としている方、現役世代でスキルアップを希望している方、シニア世代で学び直しを行いたい方々々、大学院の入学目的は多様であってしかるべきです。とはいえ、大学院は「研究の場」でありますから、日々幅広くかつ深く研鑽を重ねるとともに、メンバー間の学問的交流を進め、相互に高めあっていきたいものです。

小生は、日本経営史・企業家史を専攻しており、主に「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一や京都府綾部市を発祥とするグンゼの創業者の波多野鶴吉、新潟県長岡市の岩塚製菓の創業者である平石金次郎・横計作の企業者活動や地域・社会貢献活動をテーマとしています。経営史を専攻としなくとも、「歴史に学ぶ」「歴史から学ぶ」とのスタンスは重要であると思料します。同好の士が広く集まらんことを期待しています。



大学院生 INTERVIEW

坂本 典久さん
マネジメント研究科 マネジメント専攻 博士課程 2年次

ジョイント・プログラムを活用し、税理士を目指す

マネジメント研究科と法学研究科との連携により税理士資格取得を支援するジョイント・プログラムを知り、大学院進学を決めました。最短3年間で2つの学位を取得し、税理士試験科目3科目の免除申請ができることに大きな魅力を感じました。

大学院の試験に向けては、経営学に関する論述問題が出題されると聞き、会計学の理論に関する内容を集中的に勉強を進めました。特に、1時間で800字を書く練習を繰り返しました。

現在は、包括利益に関する研究に取り組んでいます。包括利益の表示制度が導入されて約12年が経過した現在、包括利益にはどのような意義があるのかを明らかにすることが目標です。様々な書籍や先行研究を参考に、企業会計情報の分析により、導入当初と現在の比較研究を行っています。

会計やマネジメントの知識が豊富な先生方にご教授いただき、学部時代には知り得なかった学問の魅力に触れる毎日です。最初は論文が思うように進まず苦労しましたが、先生方にご指導いただきながら、コツコツと積み上げていっています。大学院ではマン・ツー・マンでの指導が多く、指導教員の先生をはじめ、授業でお世話になった先生方も、快く研究の相談に乗ってくださいるので、心強いです。

修了後は、会計学とマネジメント能力を活用して、税理士としてコンサルティング業務に携わりたいと考えています。また、定年退職後には個人で事業を行い、社会貢献することを目標としています。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

戦略と組織 Strategy/Organization			
篠原 健一 教授 Ken-ichi Shinohara Professor	作業組織の国際比較研究 Study of work organizations in the perspective of international comparison	岡部 曜子 教授 Yoko Okabe Professor	組織の情報システム、日本企業のグローバル化 Organizational Information System, Globalization of Japanese Corporations
箕輪 雅美 准教授 Masami Minowa Associate Professor	競争優位の源泉としてのビジネスモデル The Business Model as a Source of Competitive Advantage	赤岡 広周 准教授 Hirochika Akaoka Associate Professor	安全性・利便性・効率性のマネジメント Management Regarding Safety, Usability, and Efficiency
上野 継義 教授 Tsuguyoshi Ueno Professor	日米の人事管理の比較的研究 1.The History of the Safety Movement and the Personnel Management in the Progressive Period in the U.S. 2.Environmental Business History	井口 衡 准教授 Hakaru Iguchi Associate Professor	国際経営・ファミリービジネス International Business, Family Business
松本 和明 教授 Kazuaki Matsumoto Professor	日本経営史・企業家史 Japanese Business & Entrepreneurial History		

マーケティングとイノベーション Marketing/Innovation			
中野 幹久 教授 Mikihisa Nakano Professor	サプライチェーン・マネジメント Supply-Chain Management	森永 泰史 教授 Yasufumi Morinaga Professor	デザインマネジメント Design Management
久保 亮一 教授 Ryoichi Kubo Professor	イノベーション、ベンチャー企業の戦略プロセス、病院経営 Innovation, Strategic Processes in Venture Business, Hospital Management	涌田 龍治 教授 Ryuji Wakuta Professor	リピート購買と顧客維持 Repeat Purchase and Customer Retention
具 承桓 教授 Seunghwan Ku Professor	イノベーション戦略、グローバルサプライチェーン及び生産ネットワーク、日本企業の競争力衰退要因分析 1. Innovation Strategy Management 2. Global supply chain and production network 3. Analysis of Factors Affecting the Decline of Japanese Firms' Competitiveness	李 為 教授 Lee Wei Professor	理論指向の実証社会学研究、国際比較研究 Theory to guide empirical sociological research
吉田 裕之 教授 Hiroyuki Yoshida Professor	日本企業のマーケティング戦略行動の動態的分析 Dynamic Analysis of Strategic Behavior in the Marketing of Japanese Companies	上元 亘 准教授 Wataru Uemoto Associate Professor	サービス・エンカウンターにおける顧客行動と従業員行動 Employee and Customer Behavior in Service Encounters
福富 言 教授 Gen Fukutomi Professor	マーケティング、営業・販売・サービス管理 Marketing, Sales and Service Management	大杉 卓三 准教授 Takuzou Osugi Associate Professor	ソーシャル・ビジネス、社会的企業、インクルーシブ・ビジネス、ICT4D Inclusive business, Social enterprise, Social business, ICT4D

アカウンタビリティとガバナンス Accountability/Governance			
在間 敬子 教授 Keiko Zaima Professor	環境配慮型社会の形成に関する理論的・実証的研究 Theoretical and Empirical Researches on the Formation of an Environmentally Conscious Society	近藤 隆史 教授 Takahito Kondou Professor	マネジメントコントロール、業績評価 Management control, Performance measurement
古村 公久 准教授 Kimihsa Komura Associate Professor	企業と社会の相互作用 Interaction between business and society	行待 三輪 教授 Miwa Yukimachi Professor	国際会計、企業の利益調整に関する研究(棚卸資産を中心として) International Accounting, Studies on Corporate profit adjustment(with a central focus on inventory assets)
伊吹 勇亮 准教授 Yusuke Ibuki Associate Professor	広告・PR会社の戦略と組織、コーポレート・コミュニケーション Strategy and Organization of Advertising and PR Agencies, Corporate Communications	中田 謙司 教授 Kenji Nakada Professor	世界の中の日本、成長を続けるためのあるべき税制を探る Search for the appropriate tax system in Japan, as a part of the globe
宮永 健太郎 准教授 Kentaro Miyonaga Associate Professor	持続可能な発展とソーシャル・ガバナンス Governance for Sustainable Development	吉岡 一郎 教授 Ichiro Yoshioka Professor	財務諸表監査、会計倫理 Auditing of Financial Statements, Accounting Ethic
橋本 武久 教授 Takehisa Hashimoto Professor	簿記、財務会計、会計史 Bookkeeping, Financial Accounting and Accounting History	中井 透 教授 Toru Nakai Professor	中小企業経営とファイナンス SMEs and Finance
松下 真也 教授 Shinya Matsushita Professor	会計制度、会計システム Financial Accounting System, Accounting Information System	石光 裕 教授 Yu Ishimitsu Professor	企業価値評価と財務会計 Business Valuation and Financial Accounting
伊藤 正隆 准教授 Masataka Ito Associate Professor	管理会計、予算管理 Management Accounting, Budgetary Control	諏澤 吉彦 教授 Yoshihiko Suzawa Professor	組織経営におけるリスクマネジメント・ファイナンスに関する研究 Risk Management and Finance in Organizational Management

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- 事業再編会計に関する論点の研究
- 共通支配下の企業結合会計に関する一考察—非支配株主の観点からの会計処理—
- 女性の活躍推進における就業継続施策と均等化施策—二つの施策の両立について—
- なぜアリババは急成長できたのか—企業成長論と企業文化論の視点から—
- ダイバーシティ・マネジメント導入・定着のための組織デザインに関する一考察
- 私立病院(美容整形)における部門リーダー行動と統合型リーダーの役割
- 新規自動車部品メーカーのサプライチェーン構築とそのプロセス—中国新興EVバッテリーメーカーCATLの事例を中心に—

- のれんの会計処理に関する一研究—減損処理における情報開示の考察—
- ポイントプログラム会計に関する一考察—消費税を中心として—
- 初期キャリアにおけるメンタリングの効果—複数のメンターの存在とプロテジェの特性に注目して—

取得可能な専修免許状 ■高等学校教諭専修免許状(商業)

修了者数(2022年度) ■修士(マネジメント) 1名

Tax Accountant Expert Joint Program

ジョイント・プログラム

税務エキスパート

Point ①

最短3年間で法学研究科法律学専攻とマネジメント研究科の学位取得が可能です。

Point ②

税理士試験3科目(会計学1科目・税法2科目)の免除を国税審議会に申請できます。

Point ③

税に関する深い知見や得意分野を得られれば、新時代の税理士を目指して活躍できます。

「税理士になりたい」夢を叶えるために

税理士は今も昔も人気の資格ですが、合格率は低く、科目によっては合格率が10%を割るという状況です。そこでスタートしたのが、最短3年で法学研究科法律学専攻とマネジメント研究科の2つの学位を取得できる「ジョイント・プログラム(税務エキスパート)」です。

そのメリットは単に試験免除の特典を得るだけにとどまりません。今や税理士の業務は、企業経営へのアドバイス、弁護士等、他の分野の専門家との連携、国際税務等、多岐にわたります。広い視野と知識、そして常に学ぶ姿勢が税理士として活躍する上で必要だといえるでしょう。このプログラムは、そうした新時代の税理士へのニーズも汲んでいます。

法学研究科で身につけた学識やリーガルマインドは、税理士として働く上で必ず生きてきます。さらにマネジメント研究科でマネジメントを学び、高いコミュニケーション能力や広い視野、深い学問的知識を身につけることは、税理士としての仕事をしていく上で大きな強みとなります。大学院ならでの学びをステップに税理士になる夢をつかみましょう！

Striving to Become a Certified Public Tax Accountant

Certified Public Tax Accountant is always a sought-after profession, but its pass rate is as low as less than 10 percent for certain examination subjects. Divisions of Management and Law collaborate and offer "Joint Program (Tax Accountant Expert)" course, supporting to pass the national qualification examination. Graduate students learn necessary knowledge to become a tax expert and are able to complete the two Degrees in the both Divisions. The shortest duration to complete is three years.

The Program's merit goes far beyond that students are exempted to take some subjects for the national examination. Nowadays required works of Certified Public Tax Accountant include advising to senior management, collaboration with other experts, such as lawyers, and international taxation. Therefore, broad perspectives, knowledge, and continuous learning are required to work as a Certified Public Tax Accountant. This Program accommodates these emerging needs of Certified Public Tax Accountants.

Legal knowledge and mind acquired through learning in the Division of Law will be an asset to work as a tax expert. Furthermore, acquiring deep knowledge and advanced communication skills, broad perspectives in the Division of Management will be a valuable advantage. Let's realize your dream becoming a Certified Public Tax Accountant, building upon your learning at the Graduate School.

ジョイント・プログラム(税務エキスパート) Learning Scheme

法学研究科 法律学専攻	1 Semester (春)	2 Semester (秋)	3 Semester (春)	単位
必須	税法特論A/B 税法特論演習A/B		★研究指導A/B	16
最重点	国際租税法特論 租税手続法特論 租税法政策特論			10
重点	民法特論A/B 商法特論A/B ☆税法特論A/B ☆税法特論演習A/B			#14
マネ研科目	組織論特論 人的資源管理特論 生産マネジメント特論 マーケティング・リサーチ特論 経営戦略論特論 ベンチャービジネス特論	経営戦略論特論 ベンチャービジネス特論		6
修論/RP	課題絞り込み	データ蓄積・執筆		合格
#36単位合格				
マネジメント研究科	1 Semester (春)	2 Semester (秋)	3 Semester (春)	単位
必須	会計特論 研究指導教員の特論演習I/II		研究指導教員の特論演習III/IV	10
最重点	財務会計特論 管理会計特論 原価管理特論 国際会計特論 税務会計特論 会計監査特論 財務管理特論 財務諸表分析特論	●副研究指導教員の特論演習I	●副研究指導教員の特論演習II	10
重点	組織論特論 人的資源管理特論 生産マネジメント特論 マーケティング・リサーチ特論 経営戦略論特論 ベンチャービジネス特論 経営管理論特論			20
法研科目	民法特論A/B 商法特論A/B 憲法特論A 行政法特論A 国際法特論A/B 法哲学特論A 租税法政策特論			6
修論/RP	課題絞り込み	データ蓄積・執筆		合格
36単位合格				

科目種別	1 Semester (秋)	2 Semester (春)	3 Semester (秋)	単位
必須	税法特論A/B 税法特論演習A/B		★研究指導A/B	16
最重点	国際租税法特論 租税手続法特論 租税法政策特論			※10
重点	民法特論A/B 商法特論A/B ☆税法特論A/B ☆税法特論演習A/B			※#14
先取科目認定				(6)
修論/RP	課題絞り込み	データ蓄積・執筆		合格
※#30単位				
科目種別	1 Semester (秋)	2 Semester (春)	3 Semester (秋)	単位
必須	会計特論 研究指導教員の特論演習I/II		研究指導教員の特論演習III/IV	10
最重点	財務会計特論 管理会計特論 原価管理特論 国際会計特論 税務会計特論 会計監査特論 財務管理特論 財務諸表分析特論	●副研究指導教員の特論演習I	●副研究指導教員の特論演習II	10
重点	組織論特論 人的資源管理特論 生産マネジメント特論 マーケティング・リサーチ特論 経営戦略論特論 ベンチャービジネス特論 経営管理論特論			※20
先取科目認定				(6)
修論/RP	課題絞り込み	データ蓄積・執筆		合格
※30単位				

2つの学位を取得

税理士試験3科目の免除申請が可能

★印……………4単位科目、無印は2単位科目を示す。
 ☆印……………必須科目を担当する教員の担当するものを除く。
 ※……………先取科目認定後の単位数を表す。
 #……………課題研究報告書提出者は、+2単位となる。
 RP: リサーチペーパー(課題研究報告書)
 ●印……………マネジメント研究科修了時までに4単位を選択履修できる。

上記科目を変更することがあります。

Division of Law

法学研究科

法律学専攻 Law Course

理論と実務のいずれにも対応できるカリキュラム

法律学専攻では、法律学・政治学に関する高度な専門知識を修得するためのカリキュラムを準備しています。研究者を目指して研究能力を身につけたい方を受け入れるのは勿論のこと、広く法化社会の要請に応える専門職業人の育成を目的として掲げ、学理の追究にとどまらずに法実務上の知識や技術をも提供する科目を開設しています。修了後の進路は、博士後期課程への進学、法律専門職(税理士や司法書士など)や公務員、企業への就職等、多岐にわたります。大学院生一人一人の入学目的に応じたきめ細かい指導を行うことが、本専攻の特長です。

法律学専攻の特色

充実の研究環境

大学院生研究室では、各人専用のデスクと書棚を備えて研究に集中できる環境を整える一方、大学院生同士で研究会等を行うにも十分なスペースを確保しています。もちろん、蔵書約109万冊の図書館やラーニング・commons等の研究空間もフルに活用できます。

実務への対応

法律学専攻では、税理士資格を有する教員による「租税法政策特論」などといった、法実務、企業法務を念頭に置いた科目を開設しています。大学院生に相応しい職業体験の場を提供する「インターンシップ」を設けているのも本専攻の特長です。理論研究を深めつつ、修了後を視野に入れた実務能力の獲得を目指すことができます。

長期履修 ※リサーチ・ペーパー — 仕事と両立、仕事を活かす —

社会人入学生は長期履修制度を利用することができ、博士前期課程2年分の学費負担で最長4年間在籍することが可能となります。仕事のペースに合わせてじっくりと研究を進めることができます。また、修士論文に代えて特定課題研究成果報告書(リサーチ・ペーパー)を選択することが可能です。実務経験を活かした研究を進めることができます。※法政策学専攻にも適用されます。



研究紹介 Research

野一色 直人 教授

新しい経済活動と消費税

消費税は、多くの人にとって、身近な税の一つですが、どのような場合、消費税が課税されるのでしょうか。例えば、新しい取引や事業が現れた場合、どのような取引等について、消費税が課税されるのかといった法的問題等について、条文の解釈、他の法制度、あるいは、外国の制度との比較等を踏まえ、租税法の一つである消費税法上、検討すべき課題は何か、新たに設けられた制度と消費税法との関係は何か等を研究テーマの一つとしています。

「経済のデジタル化・キャッシュレス化と消費税」(租税法研究49号(2021年)64頁)では、新しい経済活動として注目されているシェアリング・エコノミーやプラットフォーム事業者の特色、あるいは、最近の議論等を整理した上で、例えば、利用者が個人情報を提供することを条件にプラットフォーム事業者が役務の提供を無償で行っている場合(例えば、メールを無料で利用できる場合等)、どのような消費税の課税関係となるのか等の問題を検討しました。

このように、消費税法の整理や条文の解釈は重要ですが、同時に、新たな経済活動と消費税法との関係についての検討等を通じて、消費税法の課題を明らかにし、目指すべき消費税法の方向性を考えることも醍醐味があります。このような研究を進める上で、他の法分野や経済等の他の分野の議論等を踏まえることが必要になることもあります。

大学院を目指す方々に様々な目標等があると思いますが、自分にとって面白いと思えるテーマの研究に取り組んでください。このような意欲や思いのある方々と一緒に法学研究科で議論できること等を楽しみにしています。

Law Course [Master's Program/ Doctoral Program]
Interdisciplinary Studies in Law and Policy Course
[Master's Program/Doctoral Program]

法律学専攻 [博士前期課程・博士後期課程]
法政策学専攻 [博士前期課程・博士後期課程]

Curriculum Learning both Theory and Practice

Law Course offers curriculum to acquire advanced specialized knowledge on law and political science. We accept applicants who wish to acquire research capacity and wish to become a researcher and offer courses on knowledge and skills both on academic inquiry and legal professions. Our educational goal is to foster specialized professionals who are able to respond to legal society widely. Upon completion, there are diverse career paths; some of our graduates proceed to doctoral program, employment as a legal professional, public officer, or corporate worker. Law Course provides close supervision, accommodating respective graduate student's purpose of graduate studies.

Law Course Program Description

Productive Research Environment

Graduate students' research rooms are equipped with individual desks and book shelves, allowing them to engage in their research. We also have space where graduate students can meet up for research meeting and discussion. Graduate students have access to 1.09mil. books at the Library, as well as research and learning space such as the Learning Commons.

Addressing Practical Works

Law Course offers courses on legal practices and corporate legal affairs such as "Taxation Policy Special Course" by a Certified Public Tax Accountant. We also offer internship courses so that graduate students are well prepared for their future careers. While they deepen theory, our graduate students also acquire practical skills to prepare for their future careers.

Long Enrollment Period/Research Paper: Balancing Work and Graduate Studies※

Our graduate students with employment are able to register for a long enrollment track, enabling to be registered for four years with the tuition for the two years. Graduate students with employment are able to conduct their research on a slower pace, along with their work schedules. Instead of Master's Thesis, students are able to choose Research Paper (Specific Research Report), building upon their work experiences. ※Applicable to Interdisciplinary Studies in Law and Policy Course



修了生 INTERVIEW

今井 宏明さん

法学研究科 法律学専攻 博士前期課程 2020年度修了

大学院の日々が、自信を持って実務の現場で活躍できる原動力です。

私は現在、修士課程を修了し、税理士試験の科目免除を受け、税理士として日々活動をしております。

大学院に進学した理由は、大学院出身の税理士先生から、科目試験では得られない判例研究の重要性、税法学の知識、税理士実務への足掛かりを築けるなどの助言をいただき、大学院の進学を決意しました。大学院では、判例研究をもとに「青色専従者における給与の該当性」について考察をしました。働き方改革など働き方が見直されている現代社会において、今の規定の一部がなじんでいないことを唱え、いずれは立法による新たな政策的解決に向けての筋道を立てたいと考えました。

大学院での経験から、現在は税務調査に強い税理士を目指し日々勤務に励んでおります。そのような道を見つけたのは、大学院の講義のおかげです。大学院では税法の知識に加え、数多くの税務訴訟を見ていきます。納税者の立場、課税当局の立場、裁判所の見解など、全ての視点から判例を研究していきます。大学院の先生には、まず判例を見ていく際「なぜ、納税者は怒っているのかを考えなさい」と指導されます。最初は「税金のため」としか思わなかったのですが、一つ一つ真剣に考えていけばいくほど、納税者の言い分、課税当局の言い分、裁判所の苦悩が見えてきます。この各立場の解釈を考えていく能力や知識は、必ず実務における税務調査に役に立つと確信しました。また、税法を知り尽くしている先生方と意見のやり取りを毎週行うので、課税当局の調査員とも張り合えるだけのプレゼン能力を養うことができました。

TOPICS

インターンシップで実務体験ができる!

本専攻では、「インターンシップ」を科目として設置しています。インターン先の希望を申告し、受入先があれば実務の体験ができます。受入先としては、税理士事務所や会計事務所、法律事務所等が想定されます。実務を体験することで、修士論文の内容も充実するでしょう。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

久禮 巨雄 准教授 Asao Kure Associate Professor	日本史上における祭祀と法制の関係 Japanese history of the relationship between the law and ritual	岡本 昌子 教授 Akiko Okamoto Professor	違法性論、英米刑法 Theory of Justification, Japanese Criminal Law, Anglo - American Criminal Law
須賀 博志 教授 Hiroshi Suga Professor	近代日本憲法史、近代日本警察史、ドイツ国家教会関係史 History of the Japanese Constitution in the Modern Age, History of the Japanese Police System in the Modern Age, Religious Law in Germany	中村 邦義 教授 Kuniyoshi Nakamura Professor	刑事責任論の研究 Responsibility Theory in the Criminal Law
中山 茂樹 教授 Shigeki Nakayama Professor	生命倫理政策への国家・法の関与のあり方 Law and bioethics	増井 敦 准教授 Atsushi Masui Associate Professor	犯罪論における集会的行為の責任原理 Theory of Criminal Responsibility for Collective Action
若狭 愛子 准教授 Aiko Wakasa Associate Professor	国家賠償法における裁量免責 Discretionary Function Exception in State Compensation Act	草鹿 晋一 教授 Shinichi Kusaka Professor	上訴、ADR、司法アクセス、法教育 Appeal to a higher court, ADR(Alternative Dispute Resolution), Accessibility of legal service, Legaeducation
高嶋 英弘 教授 Hidehiro Takashima Professor	契約上の付随義務論、生殖補助医療の法規制、消費者法教育の体系化 Supplementary Duty of a Contract, Legal Regulations of Assisted Reproductive Technologies, Systematization of Consumer Education	日渡 紀夫 教授 Norio Hiwatashi Professor	審理過程論 Trial Procedure Theory
坂東 俊矢 教授 Toshiya Bando Professor	消費者契約から民法のあり方を考える Contract Law From the Point of Consumer Transaction	成田 秀樹 教授 Hideki Narita Professor	捜査とプライバシーの保障 Investigation and Security of Privacy
山本 宣之 教授 Nobuyuki Yamamoto Professor	債務の最終的負担者 Who is the final debtor?	高島 淳子 教授 Junko Takahata Professor	失業時の生活保障に関する日独比較 A Comparative Study of the Japanese and German Unemployment Insurance Law
野一色 直人 教授 Naoto Noishiki Professor	租税手続法、消費税法 Tax Procedure, Consumption Tax Act	渡邊 泰彦 教授 Yasuhiko Watanabe Professor	SOGIと家族法 SOGI and Family Law
木村 吉孝 准教授 Yoshitaka Kimura Associate Professor	租税回避の研究 Study on the tax avoidance	上野 達也 准教授 Tatsuya Ueno Associate Professor	民法典と特別私法 Civil Law and Special Private Law
戸田 五郎 教授 Goro Toda Professor	欧州の出入国管理・庇護政策 Immigration Control and Asylum Policy in Europe	古谷 貴之 教授 Takayuki Furutani Professor	契約責任の現代化—EU法との比較— Modernisation of Contractual Liability - Comparison with EU Law -
佐藤 育己 准教授 Ikumi Sato Associate Professor	国際的な担保取引と法 Transnational Secured Transaction and Law	木俣 由美 教授 Yumi Kimata Professor	株主の権利と少数派株主の保護 Rights of Shareholders and Protection of Minority Shareholders
吉澤 卓哉 教授 Takuya Yoshizawa Professor	保険の仕組みと保険契約法、保険業への参入規制 Essence of Insurance and Insurance Contract Law, Regulation of Entry into Insurance Market	佐藤 誠 教授 Makoto Sato Professor	コーポレートガバナンス、企業結合規制 Corporate Governance, Regulations on Combined Companies

※2024年度研究指導教員については、[2024年度 大学院学生募集要項]にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- 生命保険の契約者たる地位の移転に係る課税問題 — 低解約返戻金型保険の移転事例を題材として —
- 所得税法59条における取引相場のない株式の価額に関する一考察
- 所得税法における青色事業専従者給与と該当性の一考察
- 信頼保護法理についての一考察 — 本人が名義使用を許諾している場合と、虚偽外観の発生や維持につき本人の帰責性がある場合の総合的検討 —
- 福利厚生費の課税に関する一考察 — 給与及び交際費との区分を中心に —
- 法人税法22条4項等における公正処理基準の判断要素の一考察
- 不法行為に基づく損害賠償金に伴う遅延損害金の所得税法上の取扱いの一考察
- 不当に高額な役員退職給与の判断基準である平均功績倍率法の合理性に係る一考察
- 商品引換券等の課税上の取扱いについて
- 存続期間の中途において配偶者居住権が消滅した場合の相続課税問題

インターンシップ受入先(実績)

- 成本公認会計士事務所
- 毛利隆志公認会計士事務所
- 木村敏之税理士事務所
- 中谷隆夫税理士事務所
- アイマーク税理士法人
- 岡松会計事務所
- 片山税務会計事務所

教員研究テーマ Research Theme (s)

久禮 巨雄 准教授 Asao Kure Associate Professor	日本史上における祭祀と法制の関係 Japanese history of the relationship between the law and ritual	岡本 昌子 教授 Akiko Okamoto Professor	違法性論、英米刑法 Theory of Justification, Japanese Criminal Law, Anglo - American Criminal Law
須賀 博志 教授 Hiroshi Suga Professor	近代日本憲法史、近代日本警察史、ドイツ国家教会関係史 History of the Japanese Constitution in the Modern Age, History of the Japanese Police System in the Modern Age, Religious Law in Germany	中村 邦義 教授 Kuniyoshi Nakamura Professor	刑事責任論の研究 Responsibility Theory in the Criminal Law
中山 茂樹 教授 Shigeki Nakayama Professor	生命倫理政策への国家・法の関与のあり方 Law and bioethics	増井 敦 准教授 Atsushi Masui Associate Professor	犯罪論における集会的行為の責任原理 Theory of Criminal Responsibility for Collective Action
若狭 愛子 准教授 Aiko Wakasa Associate Professor	国家賠償法における裁量免責 Discretionary Function Exception in State Compensation Act	草鹿 晋一 教授 Shinichi Kusaka Professor	上訴、ADR、司法アクセス、法教育 Appeal to a higher court, ADR(Alternative Dispute Resolution), Accessibility of legal service, Legaeducation
高嶋 英弘 教授 Hidehiro Takashima Professor	契約上の付随義務論、生殖補助医療の法規制、消費者法教育の体系化 Supplementary Duty of a Contract, Legal Regulations of Assisted Reproductive Technologies, Systematization of Consumer Education	日渡 紀夫 教授 Norio Hiwatashi Professor	審理過程論 Trial Procedure Theory
坂東 俊矢 教授 Toshiya Bando Professor	消費者契約から民法のあり方を考える Contract Law From the Point of Consumer Transaction	成田 秀樹 教授 Hideki Narita Professor	捜査とプライバシーの保障 Investigation and Security of Privacy
山本 宣之 教授 Nobuyuki Yamamoto Professor	債務の最終的負担者 Who is the final debtor?	高島 淳子 教授 Junko Takahata Professor	失業時の生活保障に関する日独比較 A Comparative Study of the Japanese and German Unemployment Insurance Law
野一色 直人 教授 Naoto Noishiki Professor	租税手続法、消費税法 Tax Procedure, Consumption Tax Act	渡邊 泰彦 教授 Yasuhiko Watanabe Professor	SOGIと家族法 SOGI and Family Law
木村 吉孝 准教授 Yoshitaka Kimura Associate Professor	租税回避の研究 Study on the tax avoidance	上野 達也 准教授 Tatsuya Ueno Associate Professor	民法典と特別私法 Civil Law and Special Private Law
戸田 五郎 教授 Goro Toda Professor	欧州の出入国管理・庇護政策 Immigration Control and Asylum Policy in Europe	古谷 貴之 教授 Takayuki Furutani Professor	契約責任の現代化—EU法との比較— Modernisation of Contractual Liability - Comparison with EU Law -
佐藤 育己 准教授 Ikumi Sato Associate Professor	国際的な担保取引と法 Transnational Secured Transaction and Law	木俣 由美 教授 Yumi Kimata Professor	株主の権利と少数派株主の保護 Rights of Shareholders and Protection of Minority Shareholders
吉澤 卓哉 教授 Takuya Yoshizawa Professor	保険の仕組みと保険契約法、保険業への参入規制 Essence of Insurance and Insurance Contract Law, Regulation of Entry into Insurance Market	佐藤 誠 教授 Makoto Sato Professor	コーポレートガバナンス、企業結合規制 Corporate Governance, Regulations on Combined Companies

※2024年度研究指導教員については、[2024年度 大学院学生募集要項]にてご確認ください。

- 延滞税の成立要件の再検討 — 基本的な課税要件事実の同一性を考慮して —
- 個人債務者が受ける債務免除益の課税上の取扱いについて — 資力喪失状態の解釈を中心として —
- 消費税法における「対価を得て行われる」の意義について
- 相続税法9条「みなし贈与」の適用要件に関する一考察 — 法人を介して経済的利益の移転が生じた場合を中心に —
- 中国における国際商事仲裁判断の承認と執行の諸問題
- パブリシティの法的性質 — 物のパブリシティの是非を中心に —
- 船舶航海能力担保義務の制度的変遷について
- 台湾司法院大法官の社会的役割 — 歴史的側面から —
- 不法原因給付と損益相殺の可否 — 最高裁平成20年6月10日第三小法廷判決の再検討 —
- 中国の会社合併における株主の保護について

修了者数(2022年度) ■ 修士(法律学) 1名

法政策学専攻 Interdisciplinary Studies in Law and Policy Course

公共の場で主導的役割を果たす人材を育成

法政策学とは、現実の社会問題を解決するために、法学や政治学の理論を基盤として方策を考える学問です。法政策学専攻のカリキュラムは、高度な専門知識を幅広く得るための「総合性」と、実社会の多様な問題に取り組むための「臨床性」を保障。公共の領域で生じる諸問題に対して解決策を見出せる人材の育成を目指します。

法政策学専攻の特色

カリキュラムのキーワードは「総合性」と「臨床性」

総合性—法律学・政治学・政策学の有機的な連携を図る

総合的な科目選択ができるようなカリキュラムにしています。導入科目としての「法政策臨床研究」を1年次春学期に置くほか、段階的に学修を進めることができるように、「公共政策論特論A/B」「地域公共論特論A/B」等の講義科目、「公共政策論特殊演習」「公共政策ワークショップ」「政治機構論特殊演習」等の演習科目を、専攻の基幹となる公共基礎科目群に配置しています。

臨床性—多様な課題に取り組む能力を獲得する

実社会における問題に対し、事例研究等によって解決の方法を考察する能力を身につけるために、「法政策臨床研究」「法政策フィールドワーク」の他、臨床的・実践的な志向が強い科目を置いています。実践的政策立案、政策評価を学ぶ「公共政策論特論A/B」や、地域社会における公共のあり方や社会的起業等の実践について学ぶ「地域公共論特論A/B」を例に挙げることができます。

問題領域別の3つの科目群

法政策学専攻の科目は「地域公共」「国際公共」「公共基礎」という3つの科目群に整理されており、段階的履修と進路に応じた系統的履修を保障しています。

Fostering Leading Public Service Professionals

Law and Policy Studies consider measures to solve social problems based on theories in the fields of law and political science. The curriculum of Interdisciplinary Studies in Law and Policy assures a broad-based approach for acquiring a wide range of specialized knowledge with a clinical approach for tackling diverse problems in the real world. The Course aims to foster professionals who formulate solutions for diverse problems in public domain.

Interdisciplinary Studies in Law and Policy Course Program Description

“Broad-based Approach” and “Clinical Approach”: Our Curriculum’s Key Words

Broad-based Approach: Attempting Organic Linkages among Law, Political Science, and Policy Studies

Our curriculum allows students to select a broad range of courses and learn gradually. In the Spring Semester of the 1st year, we offer “Law and Policy Clinical Research” as an introductory course. Other core Graduate Courses include lecture courses such as “Public Policy Studies A/B,” “Regional Public Policy Special Course A/B,” seminar courses “Public Policy Special Seminar,” “Public Policy Workshop,” and “Political Organization Special Seminar.”

Clinical Approach: Acquiring Ability to Address to Diverse Issues

We offer clinical and practice-oriented graduate courses such as “Law and Policy Clinical Research,” “Law and Policy Field Work,” allowing students to acquire capability to consider solutions for social problems through case studies. Graduate students learn practical policy formulation and policy evaluation by taking “Public Policy Studies A/B.” Students have practical experiences in social business, public and local communities through the “Regional Public Studies A/B” course.

Three Course Areas

Our Law and Policy Course comprises of three areas of study, “Regional Public,” “International Public,” and “Public Base.” Our curriculum assures gradual and systematic learning.



研究紹介 Research

中谷 真憲 教授

社会をアップデートするために理論と実践を架橋する

フランスおよび日本の公共政策、市民社会論を中心に研究しています。フランスについては移民政策や対EU、対アメリカのスタンスの分析などを行ってきました。長い歴史の中で培われてきた独特の共和国原理、つまり共和国とは何かということに関するフランス的思考そのものに目を向け、それがどのように今日の政策に結びついているかという観点を大事にしてきました。公共政策を通じてフランスという国の政治文化や市民社会について考えているというのが私の研究姿勢になります。

もう一つは日本ですが、フランスの市民社会の研究を続けている間に、では日本における市民社会の理論と実践はどこまでできているのか、という関心が強くなり今はこちらがむしろメインのフィールドになってきました。近代以降の政治は基本的に公的領域と私的領域の分離にもとづいて進んできたわけですが、今日的な課題にこたえていくためには公私の架橋や私的企業の中にある公共性をいかに引き出すか、ということが大切になります。

この観点で市民社会論の理論をアップデートすること、そして評論家であるのではなく、実際に社会的実装を仕掛けていくことに日々取り組んでいます。常に現実の社会のただ中に身を置いて考え続けることをポリシーとして、企業、経済団体、行政の方々とともにソーシャル・イノベーションの進む社会づくりに知恵を出し、汗をかき、走り回る日常です。



大学院生 INTERVIEW

山戸 龍徳さん
法学研究科 法政策学専攻 修士課程 2年次

深い学びと研究活動で視野が広がった

人材育成の仕事に興味があり、より深く学ぶために大学院に進学しました。大学院試験の受験勉強は、過去問を入手し、そこから何をやらなければならないかを逆算して取り組みました。最初は比較的わかりやすい本を選択し、そこから理解を深めていきました。

大学院では、「地域におけるソーシャル・キャピタル」をテーマに、人と人とのつながりの創生プロセスと地域アイデンティティについて研究しています。担当教授のマン・ツー・マンによる指導や授業を通じて、自分の論理が深まっていくのが感じられ、充実した毎日です。研究活動を通じて視野が広がり、学部生時代には漠然としか思い描けなかった社会を身近に体感できるようになってきました。

将来は、大学院で学んだ専門分野を活かして、マクロ的には社会、ミクロ的には個人に至るまで幅広く貢献していきたいと思っています。

多様な選択の中で、大学院への進学は少数派で、それゆえ気持ちが揺らぐときもあります。しかし、就職するにしても、大学院へ進むにしても、どの選択肢にも正解不正解はなく、あるのは個人の意志のみです。熟考した上で大学院進学という選択をした場合、ここには学ぶ意志を受け入れる万全の態勢が整っていて、教授陣や事務室の方々による手厚いサポートを受けることができます。研究過程においても、客観的視点とともに個人の意志が重要になってくるので、その最初の一步として進路を選択してください。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduate-school/)の大学院教員紹介を参照してください。

久保 秀雄 教授 Hideo Kubo Professor	法社会学における理論と調査の結合 Integrating Theory and Research in Sociology of Law	中井 歩 教授 Ayumu Nakai Professor	現代日本の政治過程 Political process of Japan
新 恵里 准教授 Eri Atarashi Associate Professor	被害者支援政策に関する研究 Study on Supporting Policy for Crime Victims	中谷 真憲 教授 Masanori Nakatani Professor	仏第五共和制下における公共政策と政治文化 Public Policy and Political Culture under the French Fifth Republic
太田 照美 教授 Terumi Ota Professor	環境行政の重要問題 Important Issues on Environmental Administration	芦立 秀朗 教授 Hideaki Ashitate Professor	(1)援助行政(ODA) (2)ガバナンス (1)Official Development Assistance (ODA) (2) Governance
岩永 昌晃 教授 Masaaki Iwanaga Professor	労働法の適用対象に関する比較法研究 Comparative Study on Matters on the Scope of Labor Law	喜多見 富太郎 教授 Tomitaro Kitami Professor	地方自治体の経営規律 Governance of local government
岩本 誠吾 教授 Seigo Iwamoto Professor	軍事・安全保障にかかわる国際法、特に人道法 International Law Concerning Military Affairs and Security with an Emphasis on Humanitarian Law	田村 正博 教授 Masahiro Tamura Professor	警察における情報の取得と保管、警察の統制 Acquisition and storage of information as well as control the police by the citizens
川合 全弘 教授 Masahiro Kawai Professor	現代ドイツ政治文化、ドイツ政治思想史 Political Culture in Modern Germany, History of German Political Thought	浦中 千佳央 教授 Chikao Uranaka Professor	警察の概念に関する政治学的アプローチを用いての研究、治安政策、社会安全学の研究 Study of the concept of police in terms of politics, Security measures, Study of social security
滝田 豪 教授 Go Takida Professor	中国政治、中国の農村社会 Politics of China, Rural Society of China	焦 従勉 教授 Congmian Jiao Professor	環境政治とガバナンス、環境ガバナンスの国際比較 Environmental Politics and Governance, International Comparison of Environmental Governance
植村 和秀 教授 Kazuhide Uemura Professor	ナショナリズムの比較研究 Comparative Studies in Nationalism		

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修了後に想定される進路

■地域に貢献する人材

- ・地方公務員上級職
- ・地方自治体の中核的な専門職員
- ・公に関わる民間企業の職員
- ・福祉施設やサービス提供事業者
- ・福祉・教育・子育て支援等に関わるNPO職員

■国際的に活動する人材 ※本専攻では国際機関職員の受験資格(修士以上)を取得可能

- ・国際公務員、国家公務員
- ・国際協力機構(JICA)等、独立行政法人の職員
- ・難民支援や平和問題に取り組むNPO職員・NGO職員
- ・県庁の海外事務所や自治体で国際交流を担う職員

■政治・ビジネス・研究分野で活躍する人材

- ・政策立案の実務に携わる議員や政党のスタッフ
- ・公共マインドを併せ持つ社会的起業家
- ・教育分野での専門職業人
- ・研究者・研究職

修士論文テーマ例

- 超高齢社会における高齢者犯罪の考察と対応方案の研究—日本と韓国を比較を通して—
- ADRとしての産科医療補償制度 —より良質な紛争処理を目指して—
- ユネスコ教育部門の政策変遷と国際潮流からの乖離度
- 介護人材の育成について —日中の比較を中心に
- 留学生から高度人材へ「産官学連携による人材獲得の展開と課題」～3府県の比較事例研究～
- 地域通貨はなぜ失敗するのか —「おうち」の事例から考える—

修了者数(2020年度) ■修士(法政策学) 1名

※2021・2022年度修了者なし

- 議員個人型の立法過程 —議員の関心と児童ポルノの諸問題—
- 紀元節論争と思想運動の政治過程 —戦後日本における「二月十一日」をめぐる相克—
- <人民蜂起>としての戦争 —フランス革命における「総動員」(Levee en masse)令成立の心理と論理—
- 警察正統性が警察組織と個人の職務満足に及ぼす影響

Division of Sociology

現代社会学研究科

Sociology Course
[Master's Program]

現代社会学専攻[修士課程]

研究科概要

本研究科は、「多様な他者と協働しながらエビデンスに基づく社会課題の解決策を考案するために、複雑な社会のあり方に関心を持ち、社会学理論と社会調査法の高度な知識を活用できる人材」の養成を目的とします。修了後は、主に、行政、民間企業、NPO団体などで高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材として活躍することが期待されます。学部卒業生に加え、社会人等にも門戸を開き、社会課題の解決を試みたい方のための教育課程を提供します。

研究科の特色

社会学の知識と実践力の錬成に配慮した多彩な授業展開

現代社会の諸問題に対する理解を深めるため、社会学の理論ならびに社会調査の方法論を体系的に学びます。高度なデータ分析手法を修得することもできます。また、地域でのプロジェクトを通じた実践的な科目や、研究者、実務家等のゲストスピーカーとの社会問題をトピックとしたワークショップを受講することもできます。

専門分野の掘り下げと幅広い視野の涵養

現代社会に関わる多様な領域(地域・人口・家族・ジェンダー・文化・教育・メディアなど)から自分の専門分野を選んで研究を進めます。同時に、他の専門分野についても理解を深め、複眼的な視点を養います。これらを通じて、現代の社会課題について広い視野から自己のテーマを追求することができます。

多様な受講生に対応した手厚い指導体制

1年次より研究指導教員、副研究指導教員の2人体制による手厚い指導を受けます。修了にあたっては、修士論文あるいは政策提言報告書のいずれかを選ぶことができます。学部卒業生や社会人など多様な学生が、互いに切磋琢磨しながら主体的な研究活動を実施することができます。



研究紹介 Research

金光 淳 教授

複雑に絡まる社会現象の「網状構造」を批判的に解剖する

現代社会は、「リスク化した社会」「時間が加速した社会」と言われます。特に日本は課題先進国と言われる多くの社会課題を抱えています。

私の研究は、学問領域を軽々と越境し、社会現象のあらゆる分野に及びます。様々な方法で「つながりのデータ」=「ネットワーク・データ」を集め、社会ネットワーク分析という高度なデータサイエンス的手法で研究を行っています。それは企業の取締役ネットワークから観光客の認知のネットワークにまで及びます。現在は、主としてアートによる社会変革の可能性を模索して、現代アートと地域社会の関係を研究しています。特に瀬戸内国際芸術祭はどのような自治体・企業の支援ネットワークによって行われ、開催自治体と島の住民がどのような関係を持っているのか、観客は作品をどのように鑑賞し、どのような認知転換が起こるのか、などを研究しています。これとは別に、ある国際的な前衛アーティスト・グループの社会ネットワークの発展、イノベーションの普及を、美術史の歴史的ネットワーク・データで研究しています。

大学院での社会学の研究では、資本制+家父長制の絡んだ現代の社会に関する深い疑問と苛立ち、またその治癒のための対抗的社会ビジョンを描く意欲が不可欠です。そのためには社会理論とデータ分析を有機的に結合させることが重要です。「流動的な構造体としての社会」を編んでいる「複雑な社会組織網」を「鋭利な分析のメス」で解剖することで、初めてそれを「編み直す」ことが可能になるのですから。

Goal and career prospects

The Division of Sociology aims to train our students to take an interest in society's complex nature and utilize advanced knowledge on social theories and research methods, leading to collaborative problem-solving with an evidence-based approach. Graduates are mainly expected to succeed in various careers, including public administration, private agencies, and nonprofit organizations as specialized professionals or talented individuals with sharp intellectual skills. Our division offers educational opportunities accessible to students from various backgrounds, graduate students from undergraduate courses and businesspersons, and continuing education students who want to solve challenging problems.

Graduate Division Program Description

Basic courses for the study of sociology and the acquisition of innovative theoretical and practical skills.

Our division offers introductory courses to systematically study social theory and research methods to understand social problems in contemporary society. Students can also acquire more advanced techniques and skills in data analysis. Moreover, students can attend regional project-based seminars to develop practical skills or workshops on social issues presented by renowned speakers such as researchers and professionals.

Strong foundation in a specialized field and the cultivation of wide-ranging perspectives

In our programs, students can decide and pursue their own research themes from a wide range of fields related to contemporary society, such as community, population, family, gender, culture, education, and media. They also study topics from various other fields according to interests. Thus, students can pursue their own research themes from a broad range of perspectives, acquiring in-depth knowledge.

Enhanced support for students from various backgrounds

Students are advised and supported by principal and subsidiary supervisors from their first year of study. Moreover, students can choose a master's thesis or research report in preparing for a master's degree. Our division provides a cooperative and competitive environment that motivates students from different backgrounds with their research activities.



在学生 INTERVIEW

オウ ジョウイ
王 舒懿さん
現代社会学研究科 現代社会学専攻 修士課程 2年次

留学生の視点で日中のジェンダー観を比較研究

大学で日本語を専攻した延長で、日本で盛んになっている社会学、なかでもジェンダーに関する研究に興味を持ちました。日本語を媒介して、現在のジェンダー観について研究したいと考え、大学院への進学を決意しました。

大学院試験の受験勉強では、日本語学習に加え、言語能力をアップするため日本語のコミュニケーション術を磨きました。また研究計画書を作成し、社会学についての基礎知識を1年間かけて自学しました。

現在は、日本と中国のテレビ広告におけるジェンダー役割のあり方をテーマに、比較研究に取り組んでいます。視聴率の高い曜日・時間帯の広告サンプルを、日本と中国それぞれで収集、コード化し、統計分析ソフト「SPSS」によって分析した内容とインタビューの結果から、類似点・相違点の分析・考察を進めていくところです。さらに過去の広告に関する研究を再検討し、新たな知見を加えたいと考えています。現代を理解するための重要なテーマだと思うので、できれば博士課程に進んで研究を深め、この分野で得た知見を活かせる職に就いて、社会に貢献したいです。

大学院では、各自テーマに関する本や論文を読んで、定期的に表示し、先生やクラスメートと議論します。修士論文が完成するまでには、莫大な努力が必要で壁にぶつかるときもあると思いますが、研究を通じて身につけた、物事に対する考え方、情報に対する分析力、本や論文の内容を要約する力は、将来どんな道に進んでもきっと役立つと思います。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(<https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/>)の大学院教員紹介を参照してください。

伊藤 理史 准教授 Takashi Ito Associate Professor	世論と政治参加に関する政治社会学 Political Sociology on Public Opinion and Political Participation	田畑 恒平 准教授 Kohei Tahata Associate Professor	先進コンテンツ技術による地域活性化 Regional vitalization by advanced technology for creating contents
奥田 睦子 教授 Mutsuko Okuda Professor	インクルーシブ・スポーツに関するスポーツ社会学研究 Sport Sociology on Inclusive Sport	濱野 強 教授 Tsuyoshi Hamano Professor	社会および地理的要因が健康長寿に及ぼす影響 Research on the effect of social and geographic factors on health
鍵本 優 准教授 Yu Kagimoto Associate Professor	自己の解体的変容についての社会学 Sociology on Dismantling the Self	藤野 敦子 教授 Atsuko Fujino Professor	人口や労働問題の実証研究 Empirical studies on population and labor issues
加藤 敦典 准教授 Atsufumi Kato Associate Professor	ベトナムにおけるローカル・ガバナンスについての文化人類学的調査 Anthropological field research on local governance in Vietnam	ポンサピタックサンティピヤ 教授 Piya Pongsapitaksanti Professor	広告研究、広告の国際比較 Advertising Research, International Comparison of Advertising
金光 淳 教授 Jun Kanamitsu Professor	社会ネットワーク分析を利用したアート・フェスティバルの計量分析 Quantitative analyses of art tourism using social network methods	耳野 健二 教授 Kenji Mimino Professor	19世紀ドイツにおける市民社会の法と哲学 Law and Philosophy of German Civil Society in the 19th Century
滋野 浩毅 教授 Hiroki Shigeno Professor	縮小社会における地域づくり Community development in a shrinking society	山中 千恵 教授 Chie Yamanaka Professor	東アジアマンガ・コミックス研究 East Asian Comics/Manga Studies
菅原 祥 准教授 Sho Sugawara Associate Professor	ポスト社会主義期のポーランドにおける社会主義の記憶 Memory of socialism in Post-socialist Poland	脇浜 紀子 教授 Noriko Wakihama Professor	情報伝達のデジタル化とメディアの地域性に関する研究 The Digital Transition of Local News and Information
鈴木 康久 教授 Michihisa Suzuki Professor	水が地域社会に果たす役割 Research on the role that water plays in the community		
惣脇 宏 教授 Hiroshi Sowaki Professor	教育政策、エビデンスに基づく教育 Education Policy, Evidence Based Education		

研究指導テーマ

金光 淳 教授	写真を利用したビジュアルメソッドの方法を用いて、地域問題を可視化するような様式で地域社会研究課題の研究指導を行う。	藤野 敦子 教授	人口や労働問題に関連する研究テーマ(例えば少子高齢化問題、家庭と仕事の両立、非正規労働、キャリア形成など)に対し、特に量的・質的なデータ分析を用いた実証的な論文作成の研究指導を行う。
惣脇 宏 教授	政策過程の分析手法をもちいて、社会問題としての教育問題に関する政策についての研究指導を行う。	耳野 健二 教授	近現代のドイツを中心とする社会思想・法思想にかかわる文献を取り上げ、社会哲学上の問題について研究指導を行う。
ポンサピタックサンティピヤ 教授	内容分析やアンケート調査、インタビュー調査などの社会調査の手法をもちいて、広告の課題の研究指導を行う。	山中 千恵 教授	質的調査法(インタビュー調査やドキュメント調査等)を用い、文化研究の指導を行う。

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

専門知識を身につけ、同時に言語運用能力を育てるプログラム

本研究科では、専攻言語の高い運用能力とその言語圏の文化・歴史的背景の理解を育てつつ、キャリア形成の基盤となる修士論文（または課題研究報告書）を高レベルで完成させるために必要な専門知識を、体系的かつ効率よく身につけられるプログラムを用意しています。

Acquiring specialized knowledge and simultaneously fostering advanced language proficiency

The Division offers systematic and effective academic programs, fostering advanced language proficiency and deep understanding of its culture and historical background, as well as necessary specialized knowledge to conduct high-quality Master's Thesis (or Research Report) that serves as the foundation for a future career.

研究紹介 Research

英米語学専攻



大和 隆介 教授

楽しく効果的に英語を学ぶ学習ストラテジー指導を実践・研究

これまでの研究の中心となっているのは、認知学習理論に基づく言語学習ストラテジーの効果と指導法についての研究です。特に学習ストラテジーに関しては、(1)小学生から大学生にいたる多様な学習者が英語学習において用いる学習ストラテジーを抽出・分類する研究、(2)学習ストラテジーの使用と学習者のメタ認知、習熟度、動機付けなどとの関係を統計的手法により検証する研究、(3)前述の研究を基に、言語学習ストラテジーの指導を取り入れた英語教授法を構築する研究を行ってきました。

近年は、「学習ストラテジーの指導」と「タスク中心の言語指導」を融合することにより、生涯を通して学び続ける自律的学習者を育成

する指導法について研究を進めています。これまでの研究から、学習ストラテジーは授業中のタスクの遂行だけでなく、日常生活で遭遇する様々なタスクを解決する際にも役立つことが明らかとなっています。解決すべきタスクを的確に分析し、活用可能なあらゆるリソースを効果的に組み合わせることで目的を達成する。このような言語学習を通して成功体験を積み重ねていくことが出来れば、自律学習の大きな歯車が回り出します。学習者の成長段階に応じて、「学びの楽しさ」と「将来のキャリア」を結びつける具体的なイメージが形成されれば、そこから確実に心豊かな人生が開かれることでしょう。一人でも多くの方が研究の輪に参加して下さることを願っています。

中国語学専攻



関 光世 教授

通訳教育の中国語教育への導入と応用

通訳通訳研究は多岐にわたる学際的で、職業との関係が深いのが特色です。私自身も会議通訳や司法通訳等の実務経験があります。私の主な研究テーマのひとつは、通訳教育の外国語（中国語）教育への導入と応用です。特に大学における中国語教育という視座に立ち、通訳訓練、知識ベース、通訳デリバリなど通訳パフォーマンスに影響する各要素を取り上げて効果を検討し、教材の開発や指導法の確立を目指しています。この研究は私の実務経験に根ざし、授業での実践と結びついています。

第二の研究テーマは20世紀初頭の翻訳白話文体の解明です。中国語は白話文学運動が盛り上がりを見せた20世紀初頭に西洋語との接触によって大きく変化しました。この時代に英語から翻訳された

白話文資料を手掛かりに、「歐化語法」と名付けられた中国語の変化、翻訳者によって微妙に異なる白話文体像とその背後にある西洋文化との交流やその影響などを明らかにしたいと考えています。

通訳通訳研究では自身の研究テーマと範囲を早期に見定め、果敢に研究を推し進める前向きな姿勢が不可欠です。日中両言語の高い運用能力も必要です。その意味から通訳や翻訳の実務経験を有する社会人の入学も期待します。本専攻には通訳技術の実践を行う科目はありませんが、中国の文化や歴史など幅広い分野の専門家がサポートしますので、将来専門職として通訳実務に携わるために必要となる一般知識や文化的知識を得ることも可能です。

言語学専攻



北上 光志 教授

テキスト言語学の観点からの言語分析

■ 研究の意義や魅力、面白さ、未来の可能性

テキスト言語学は、文脈から言語現象を研究する学問です。文脈には話し手や書き手の感情が反映されます。この感情の表れ方は必ずしも安定していません。伝える意味は同じでも形が違う文（例えば、日本語の「手を伸ばして、本を取った」と「手を伸ばし、本を取った」）がよい例です。どちらの形でも使えそうな、曖昧な表現の使い分けを行うとき、話し手や書き手の心の動きはどうなっているのでしょうか。私は人間の揺れる感情と言語表現の関係に着目し、それらの理論化と実証をテーマにして国内外で研究発表や講演をしています。2006年にはロシア連邦政府からプーシキンメダル（文化功労章）を授与されました。学問の発展には一つの分野だけでなく様々な分野からのアプローチが必要です。換言すれば、それだけ多くの研究者とのコミュニケーションが不可欠です。この考え方に立って、海外へ出

向くだけでなく、国際学会（国際インターネット語学教育フォーラム（2014年）、国際アスペクト会議（2015年）、リアル・インターネット語学教育世界会議（2019年））を主催し、各国の著名な研究者たちと学際的な協力を推進しています。研究の醍醐味にはこういった人の輪の広がりも含まれます。

■ 大学院進学を目指す学生へのメッセージ

直ぐに実現することを「夢」とは呼びません。夢を叶えるには時間が掛かります。そして、夢を追いかけるとき、人は自らの存在意義を強く意識します。過去の自分をひっぱり出してきて、現在できないことの言い訳にはいきません。すべてを吸収するのだという気概で前を向きましょう。失敗したら苦しむから、前もって止めておこうというような「経験の食わず嫌い」をせず、とにかくチャレンジして、その結果を成長の糧にしてください。

英米語学専攻 English Course

英語教育学とその関連分野の充実したカリキュラム

英米語学専攻では、英語教員あるいは言語学とその関連領域の専門知識を活かした仕事に就くことを目指す人のために、英語教育学、言語学、そして英文学や英語圏文化まで、多彩な科目を開講しています。それぞれの研究領域で高い研究能力を持つ教授陣が、学生一人一人が自分に合った研究テーマを選び、それに取り組み、完成させるためのプロセスを一丸となってサポートします。

英米語学専攻の特色

英語での議論を重視した授業

専門知識と研究の方法論を身につけ、問題を整理・分析し、解決案を探る能力、同時に高い英語運用能力を養うため、すべての授業で、英語のテキスト・論文の内容・論点を正確に読み取り、明確な問題意識を持って英語で議論する訓練を継続的に行います。

「特別演習」を設置

修士論文（または課題研究報告書）のテーマが2つの研究領域にまたがり（「英語教育」+「応用言語学」等）、複数の教員から専門的な指導を受けたい場合、または研究の準備に必要なテーマの授業が開講されていない場合に、授業担当者とテーマを指定して受講することができる「特別演習」を設置しています。本科目は「研究指導」の補助的役割を担い、修士論文の質を高めることを目的とします。

英語教育に関する国内外のフィールド・リサーチを実施

オーストラリア・メルボルンのSwinburne工科大学で「英語教育海外フィールド・リサーチ」、京都産業大学附属中学校・高等学校で「英語教育国内フィールド・リサーチ」を実施しています。研究指導教員の指導のもとに国内外の教育機関での研修を受け、研究テーマに関連した調査を行うことにより、教育現場の問題点の理解を深め、その解決法を探ります。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(<https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/>)の大学院教員紹介を参照してください。

加野 まさみ 教授 Makimi Kano Professor	コーパスに基づく語彙・語法・語義分析、借用語の定着過程、メタファー研究 Corpus-based Analyses of Vocabulary, Usage, and Meaning, Assimilation Process of Loanwords, Metaphor Study
ゴードン・バートレット 教授 Peter Bartlett Gobel Professor	英語学習における学習心理と学習行動の関係 Motivation and Affect in Language Learning
鈴木 孝明 教授 Takaaki Suzuki Professor	母語獲得、第二言語習得、言語処理 First Language Acquisition, Second Language Acquisition, Language Processing
鈴木 雅恵 教授 Masae Suzuki Professor	英語圏演劇及び比較演劇(アジアのシェイクスピア受容、アイルランド演劇、沖縄演劇、能楽の翻訳・翻案を含む)研究 Comparative Theatre Studies focusing on Reception of Shakespeare in Asia, Irish Theatre, Okinawan Theatre and Adaptation of Noh
高橋 眞理 教授 Mari Takahashi Professor	自然言語の文法理論、統語論、形態論、日・英語比較 Grammatical theory of natural language, Syntax, Morphology, Comparison of English and Japanese

難波 和彦 教授 Kazuhiko Namba Professor	日英バイリンガルのコードスイッチングへの文法的アプローチ Linguistic Analyses of Code-switching in English-Japanese Bilinguals
--	--

※2024年度研究指導教員については、f2024年度 大学院学生募集要項にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- Implementing Digital Storytelling Projects: A Case Study at the University Level
- デジタル・ストーリーテリングを用いた英語教育の導入—大学生を対象とした事例研究—
- Qualitative and Quantitative Analysis of English Textbooks Used in Japan, China and Finland
- 英語の「what自由関係節」の統語構造と意味解釈について
- “dog”とその下位語のメタファー表現研究—英米語コーパスを用いた使用実態解明と含意的意味分析—

取得可能な専修免許状

■中学校教諭専修免許状(英語) ■高等学校教諭専修免許状(英語)

Curriculum on English Language Education and Related Fields

The English Course offers diverse courses on English Education, Linguistics, English Literature, and Culture of the English-speaking world for those who wish to become an educator of English or work in linguistics and related fields. Our leading faculty members in the research field support our graduate students over the process of selecting a theme, conducting research, and completing their graduate thesis.

English Course Graduate Program Description

Discussion-focused Courses in English

In order to acquire specialized knowledge, research methodology, organizational, analytical, problem-solving ability, and advanced English proficiency simultaneously, in all graduate courses, we continuously train our graduate students to accurately grasp texts written in English, with regard to its content and arguments.

Offering “Special Tutorial Seminars”

The Course offers “Special Tutoring Seminars,” attempting to function as supplemental “Research Supervision” courses and to enhance the quality of the Master’s Theses. When a graduate student’s research theme pertains to two disciplines (e.g., “English Education” and “Applied Linguistics”) and they wish to obtain guidance by multiple faculty members, or related courses are not offered, graduate students are able to appoint faculty members and specify the course theme.

Offering Field Research on English Education Courses in Japan and Abroad

The English Course offers off-campus learning, “English Education Field Research in a Foreign Country” at Swinburne University of Technology, in Melbourne, Australia and “English Education Field Research in Japan” at Kyoto Sangyo University Junior/Senior High School. Under the guidance of a faculty advisor, students conduct their research, deepen field-specific issues and explore solutions.

大和 隆介 教授 Ryusuke Yamato Professor	第二言語習得における個人差要因、学習ストラテジーと自律学習 Factors Affecting Individual Performance in Language Learning, Learning Strategies and Self-directed Learning
江尻 雅一 准教授 Masakazu Ejiri Associate Professor	アメリカの文化景観 American Cultural Landscape
小川 知恵 准教授 Chie Ogawa Associate Professor	教室内での第二言語習得、スピーキング研究、言語テストング Instructed Second Language Acquisition, L2 Speaking Research, Language Testing
瀧口 いずみ 准教授 Izumi Takiguchi Associate Professor	第二言語における音声知覚・産出に関する実験的研究 Second Language Speech Perception and Production
ラヴォレット エリザベス ホリー パフ 准教授 Lavolette Elizabeth Holly Pfaff Associate Professor	ランゲージセンター研究、第二言語習得におけるフィードバック Language center studies, the role of feedback timing in second language acquisition

- The misuses of English articles in second language compositions by Chinese and Japanese learners: A corpus-based study
- How does the working holiday experience affect the formation of Ideal L2 Self and Ought-to L2 Self in the L2 Motivational Self System? —A qualitative study of three Japanese learners of English using narrative analysis—

修了者数(2022年度)

■修士(英米語学) 2名

中国語学専攻 Chinese Course

中国語学を中心に東アジアの文化に迫る 充実したカリキュラム

中国語学専攻では、中国語学の体系的知識に基づき、東アジアの言語文化を深く考察することを目的としています。この分野の専門知識を生かした仕事に就くことを目指す人のために、多彩な科目を開講しています。それぞれの研究領域で高い研究能力を持つ教授陣が、学生一人一人が自分に合った研究テーマを選び、それに取り組み、完成させるためのプロセスを、一丸となってサポートします。

中国語学専攻の特色

語学、文化、さらに実用的な研究も

中国語学の通時的・共時的な研究の他、中国文化や日中比較文化の研究もできます。語学部門では現代中国語の語彙論・文法論、中国語史、音韻学、中国文化言語学・日中語対照研究・東アジア語文交渉史等。文化部門では、中国文化研究・日中比較文化研究等を行います。また、「中国語通訳・翻訳研究」の科目は、司法通訳等の実用的な需要にも備えています。

各分野の第一人者によるマン・ツー・マン指導

各分野とも、学界第一人者の研究指導教員よりマン・ツー・マンで丁寧な指導を受けることができます。基礎から専門へと積み上げ方式で、課題を設定し、論理的に分析する能力を身につけます。また、図書館には小川文庫(京都大学名誉教授・本学教授を歴任された小川環樹先生旧蔵書)も整備されており、他大学には見られない充実した研究環境が大きな特色です。

教員研究テーマ Research Theme (s) ●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

池田 昌広 教授 Masahiro Ikeda Professor	東アジア書籍史の研究 History of Books Among East Asian Nations	畠山 香織 教授 Kaori Hatakeyama Professor	異文化受容における日本と中国の比較研究 The Comparative Study of Japan and China in Terms of Reception of Foreign Cultures
久米 裕子 教授 Hiroko Kume Professor	経書解釈の歴史的展開 Historical development of interpretations of Confucian scriptures	澤田 達也 准教授 Tatsuya Sawada Associate Professor	中国語音韻史、中国辞書史 Historical Chinese phonology and the history of Chinese dictionaries
関 光世 教授 Mitsuyo Seki Professor	通訳・翻訳論及びその中国語教育への応用 Translation and interpreting theories and their application to Chinese language learning		

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

Rich Curriculum to Learn Chinese Linguistics and East Asian Cultures

The purpose of Chinese Course is to consider languages and culture in East Asia, based on systematic knowledge of Chinese linguistics. The Course offers diverse courses to prepare our students to engage in careers in their specialized field. Our leading faculty members in the research field support our graduate students over the process of selecting a theme, conducting research, and completing their graduate thesis.

Chinese Course Graduate Program Description

Languages, Culture, and Practical Research

Graduate students conduct their research on diachronic and synchronic research on Chinese linguistics, Chinese culture, and Japan-China comparative cultural research. In the linguistics area, we work on contemporary Chinese lexicology, grammar, Chinese language and the history, phonology, Chinese ethno-linguistics, Japanese-Chinese comparative research, and the history of interactions in East Asian written languages. In the cultural research area, we work on Chinese cultural research and Japan-China comparative cultural research. In response to the practical demand for judicial interpreters, we offer a "Research in Chinese Interpretation and Translation" course.

One-to-one Supervision by Leading Scholars

Graduate students are supervised on a one-to-one basis by leading scholars. Assignments are structured to build from the basics up to specialized knowledge, fostering logical and analytical abilities. We have an unmatched productive research environment with Professor Ogawa's collection (donated by Professor Emeritus Ogawa, Kyoto University and Professor of Kyoto Sangyo University) at the Library.

言語学専攻 Linguistics Course

多面的な視点から言語学にアプローチする

個々の言語の音韻、文法、意味等の考究、人間言語に共通の理論、原理の探求、言語資料を駆使して「文化」を深める文献研究等を通じて「言語学」にアプローチ。また、外国人留学生受け入れに伴う外国語としての日本語研究及び日本語・他言語の対照研究等を行います。

言語学専攻の特色

様々な分野の充実した教授陣

言語学専攻は、教員総数10名、そのうち修士論文の指導が可能な研究指導教員が7名と、充実した教授陣を誇っています。その専門とする言語も世界中の諸言語にわたり、研究領域も個別言語研究や一般言語学にとどまらず、応用言語学や文献学研究等にも及んでいます。

研究テーマに応じた多面的な指導

大学院生は、それぞれの研究テーマに応じて、様々な言語や専門分野の研究者である教員から、マン・ツー・マンの指導を受けることができます。充実した教授陣により、大学院生本人の専門分野だけでなく、関連分野や論文を読むために必要な言語についての指導も受けることができます。

教員研究テーマ Research Theme (s) ●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

今西 利之 教授 Toshiyuki Imanishi Professor	現代日本語の文法、日本語教育の教材開発、多文化共生社会と日本語教育 Syntax and Semantics of Modern Japanese Language, Developing Textbook of Japanese Language Education, Japanese Language Education in the Multicultural Symbiotic Societies	玉村 禎郎 教授 Yoshio Tamamura Professor	○ 意味論・語彙論・文字表記論を中心とした日本語研究(古典語・現代語) ○ 日本語における文法化の研究 ○ semantics, lexicology and notation theory (classic and modern Japanese) ○ grammaticalization in Japanese
北上 光志 教授 Mitsushi Kitajo Professor	テキスト言語学の観点からのロシア語研究 The study of Russian language from the point of view of text linguistics	朴 真完 教授 Park Jinwan Professor	日本における韓国語教育史、韓国における日本語教育史 Korean language education history in Japan, Japanese language education history in Korea
小林 満 教授 Mitsuru Kobayashi Professor	イタリア語史、イタリア文学史から見たガリレオ・ガリレイ Galileo Galilei as seen from the Perspective of Italian Linguistic and Literary History	平塚 徹 教授 Toru Hiratsuka Professor	フランス語を中心とする認知言語学的研究 Cognitive Linguistics Studies Focused Primarily on French
島 憲男 教授 Norio Shima Professor	意味論や機能的類型論を中心としたドイツ語の文法・構文研究、独日英語を対象とした対照研究 Research in German grammar, syntactic constructions in German Based on semantics and functional typology, and contrastive analysis of German, Japanese and English languages	安田 和彦 教授 Kazuhiro Yasuda Professor	インドネシア語学、統語論、機能文法 Indonesian Grammar, Syntax, Functional Grammar
下田 幸男 教授 Yukio Shimoda Professor	スペイン語統語論、意味論、語用論。コーパスに基づくスペイン語の構文 Spanish syntax, semantics and pragmatics. Studies for the constructions of Spanish based on the corpus.	吉田 和彦 教授 Kazuhiro Yoshida Professor	言語の構造と歴史に対する理論的および記述的研究 A Theoretical and Descriptive Study of the Structure and History of Languages

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- 关于《东语简要》的音译研究
- 村上春樹作品の「使役表現」をめぐる日本語・中国語の対照研究
- 日本語受動文と中国語受動文の対照研究
- 最近50年の北京語呼称語の変化について
- 《海国图志》对首字声母的特点
- 《老乞大》の2種類の版本間の呼称語と地名に関する比較研究
- 東アジアにおける〈階級〉という語の出現とその使われ方
- 一近代中国への影響を主に
- 華英通語の3種類の版本について
- 浙江省麗水区の山魁伝説について
- 魯迅と未名社 一魯迅と青年たち
- 龍龕手鏡金部とその正俗字體
- 阿Q試論
- 《茉莉香片》と《心經》に見る東洋的個性化
- 『笠翁詞韻』の音系について
- 劉伯唱和考

取得可能な専修免許状 ■ 中学校教諭専修免許状(中国語) ■ 高等学校教諭専修免許状(中国語)

大学院生 INTERVIEW



田中 優子さん
外国語学研究所 言語学専攻
博士課程 2年次

言語学の知識を活かして日本語教師に

学部生のとき、日本語と日本語教育について学び、留学生に日本語を教える実習に参加して、「日本語教師になりたい」と思うようになりました。しかし、日本語学や言語学が苦手、大学卒業後すぐに日本語教師になることには不安があったため、将来自信を持って日本語を教えられるよう、大学院へ進学しました。大学院では深く掘り下げて学びます。学部生のときは「なぜこんな当たり前を」と不思議に思った理論も、大学院でその理論のできた背景や目的、本当の使い方を学ぶこ

とによって、見方が大きく変わりました。学部時代には表面的にしか理解できなかったことが、大学院に入って包括的に理解できたときは、とてもうれしかったです。私の所属している研究科は学生が少ないため、先生方との距離が近く、自分の好きな分野・関心分野についてより深く学ぶことができるのが魅力だと思います。

現在は、日本にルーツを持つ海外在住の子どもの日本語教育や、日本に住む海外ルーツの子どもの母語教育について研究しています。子どもの言語教育には親の考えが大きく影響するので、親が何を意図して子どもの言語教育にどのように介入しているのか、また子どもの言葉の習得度には親の介入がどれくらい関係しているのか、調べています。将来は言語学の知識を活かして、学習者の誤用を言語学から分析したり、日本語学の考え方から疑問に答えたりできるような日本語教師になりたいです。

修士論文テーマ例

- 観光情報発信における「やさしい日本語」をめぐる
- 語彙・表現リストの作成と観光「やさしい日本語」文の実用性分析—
- ロシア語形動詞構文の問題点
- 能動形動詞不完了体の特殊性—
- 卑罵表現における卑罵機能と「人間に関する名詞」の階層性との関係について
- 名詞の指示対象と人との密着度をもとに—
- アラビア語における前置詞の用法
- 古典アラビア語と現代文語アラビア語の比較を通じて—
- 「アールヤバティヤー」第3章へのパースカラ
- 世による注釈の翻訳と解釈

修了者数(2021年度)

■ 修士(言語学) 2名
※ 2022年度修了者なし

Division of Science 理学研究科

数学専攻 Mathematics Course

世界で誰も知らないことを発見する喜び

現代数学は、伝統的な純粋数学や応用数学、プログラミングの基礎理論まで広範囲に亘り、また科学を記述する言葉でもあります。数学専攻では、純粋数学、応用数学から計算機科学まで多様な科目を設置し、各分野においてきめ細かい研究指導を実現しています。

数学専攻の特色

問題解決に活躍する数学

数学の対象は物理学や工学はもちろん、最近では生物学や経済学、社会学に現れる問題にも広がっています。数学は現象を微分方程式や確率微分方程式等で定式化して問題を正確に表現する言葉として、またそれらの数式を解析する道具として必要不可欠な役割を果たします。本学大学院では、様々な分野で問題解決に活躍する数学の魅力を体験できる最先端の数学研究に取り組んでいます。

高いレベルで教養を身につける

学部で得た基礎知識では足りない数学的教養を補って、高いレベルで数学全般を学べるカリキュラムを組んでいます。進路として教員を志望する学生のために、教育者として知っておくべき教養を身につける機会を提供します。研究職を目指す学生には、最先端の数学研究に繋がるより高度な数学の主題を提供します。

社会の発展に繋がる研究

コンピュータ技術、暗号やセキュリティ技術、現象数理モデルの構築とその解析、リスク管理等、現代社会で必要不可欠な技術を支えている土台には必ずと言ってよいほど数学の理論が潜んでいます。その中には、純粋数学の最先端の結果が活かされた例もあります。応用数学の研究はもちろん、純粋数学の研究であっても、ゆくゆくは社会の発展に繋がっていくのです。

数学で国際舞台に立つ

日本の数学研究のレベルは世界でもトップクラス。数学は科学の共通言語として極めてグローバルな学問です。国際研究集会に招待されて研究発表する大学院生もいます。また修士論文には新しい知見が含まれているので、国際的な研究雑誌に英語で論文を発信することが出来れば、世界中の研究者に注目されます。博士前期課程では、英語の文献・資料を数多く読むことを推奨し、理系の英語に慣れてもらうことを目標にしています。

Mathematics Course [Master's Program, Doctoral Program]
Physics Course [Master's Program, Doctoral Program]

数学専攻 [博士前期課程・博士後期課程]
物理学専攻 [博士前期課程・博士後期課程]

Joy of discovery that no one yet knows in the world.

Contemporary mathematics has been covered traditional pure mathematics, applied mathematics, and furthermore basic programming theory. Contemporary mathematics also serves as a language to describe science. Our mathematics major offers a wide range of courses including pure mathematics, applied mathematics, and computational science. Furthermore, we offer detailed research guidance for our students.

Mathematics Course Graduate Program Description

Mathematics Actively Engaging to Solve problems

The field of mathematics has been covered physics, engineering, and more recently, biology, economics, and sociology. Mathematics serves not only as a language to describe several phenomena using differential equations and stochastic differential equations, and to express such problems precisely, but also serves as essential tools analyzing the equations. Our division is working on in a wide variety of the leading-edge mathematics research, enabling our students to experience the attractive power of mathematics.

Acquiring Advanced Mathematics / Mathematical Science

Our curriculum teaches advanced mathematics/mathematical science beyond undergraduate basic knowledge. For graduate students aiming at teaching career, our division offers opportunities to acquire teaching skill which is necessary for educators. For graduate students aiming at research positions, we offer more advanced mathematical subjects which lead to foremost mathematical researches.

Research Leading to Social Development

Mathematical theories serve as the foundation of indispensable technologies in modern society such as computer technology, coded messages, security technology, mathematical modeling of various phenomena, risk management, etc. Leading-edge discoveries in pure mathematics have been also applied to some of such technologies. Not only applied mathematics but also pure mathematics findings eventually lead to social progress.

Mathematics-Working in a Globalized Field

Research level of mathematics in Japan is highest in the world. Mathematics, the common language of science, is a highly globalized discipline. Some graduate students may also be invited to present their research at international conferences. Moreover since master's thesis contains new knowledge, if s/he could submit a paper to international journal in English, her/his work becomes widely known in professional community. In our master's program, we encourage students to read a large number of English research articles and aim them to become accustomed to working in English.



研究紹介 Research

志賀 啓成 教授

曲がった世界で解析し、変形する

私の研究テーマは「リーマン面と離散群の変形理論」ということになっています。“なっています”というのは、その時々によって研究対象が変わるからです。とはいえ、数学の広大な分野の中をあちこちと彷徨するのではなく、概ね自分の興味と得意分野で勝負をしています。その核となるテーマが上に挙げたものです。

タイトルにある「曲がった世界」というのはリーマン面で、「解析」というのは「複素解析」です。学部で習う解析学はユークリッド空間で考えます。これを曲がったところで考えるには「多様体」という概念が必要です。例えばドーナツの表面やコーヒーカップの表面などは曲がった表面で、リーマン面になります。位相幾何学ではこの二つは同相で、同じものですが、リーマン面では二つは違っているとみなし、そこで展開される解析学にどのような影響があるかを考えます。また、コーヒーカップはドーナツを「変形」したものと捉え、その変形を数値化して変形の「大きさ」や変形してできるリーマン面全体の構造を調べます。このような研究は数学の様々な分野や物理学と関係していることが知られています。

数学の研究には実験装置も要らず、どこかで何かを調査する必要もありません。自らの知的好奇心と数学的アイデアを携えて思索するだけです。さまざまな工夫を凝らして研究すると、ときに寝食を忘れてのめり込みます。一方、「数学」は共通言語として、国境、年齢、性別、時代を超えたコミュニケーションを与えます。過去の数学者たちの独創性に感銘を受けたり、自分の研究分野と同じ世界中の研究者と議論する、そんなことができる楽しさもあります。



修了生 INTERVIEW

たじま農業協同組合 総合職
金道 友里さん
理学研究科 数学専攻 博士前期課程 2022年度修了

他大学の先生方や学生たちとの交流が励みに

高校生のときから数学の世界に興味をもち、深く学ぶために大学院へ進学しようと心に決めていました。大学院での研究テーマは、双曲幾何学における作図問題及び理想双曲四角形です。双曲幾何学の世界では、三角形の内角の和が180°にならなったり、直線が曲がっていたりと、当たり前が覆されます。そんな世界における中点がコンパスと定規を使ってどのように作図できるか、また、ユークリッド幾何学では作図不可能だが、双曲幾何学では作図可能なものは存在するのかなどを研究しました。理想双曲四角形というのは双曲幾何学における特別な四角形なのですが、そのような四角形の向かい合う辺の距離について考察しました。

函数論サマーセミナーや勉強会で自分の研究を発表し、他大学の先生方や学生たちと議論ができたのは有意義な体験でした。学外で発表することにより、自分の研究に興味を見出すことができ、多くのアドバイスをいただいたおかげでより良い成果を得ることができました。修士論文の中には函数論サマーセミナーで知り合った学生との共同研究が含まれており、その研究テーマは会場で投げかけられた質問から生まれたものです。自分の研究を発表したときに、周りの方々が興味を示してくれたことはとてもうれしく、励みになりました。他大学の先生方や学生たちの研究を聞くことはよい刺激となり、多くの出会いは生涯の宝物となりました。大学院に進学したからこそできた経験だと思います。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

牛瀧 文宏 教授 Fumihito Ushitaki Professor	(1)位相変換群論とその周辺分野 (2)小中高の算数科・数学科での教員研修開発 (1) Theory of Topological Transformation Groups and Related Topics (2) Development of Teachers' Training Programs in Arithmetic and Mathematics	村瀬 篤 教授 Atsushi Murase Professor	多変数保型形式の整数論 Theory of Automorphic Forms of Several Variables
志賀 啓成 教授 Hiroshige Shiga Professor	リーマン面と離散群の変形理論 The deformation theory of Riemann surfaces and discrete groups	柳下 浩紀 教授 Hiroki Yagishita Professor	非線形拡散方程式の定性的理論 Qualitative Theory of Nonlinear Diffusion Equations
重川 一郎 教授 Ichiro Shigekawa Professor	確率解析的手法によるマルコフ過程の研究 Research on Markov processes via stochastic analysis	山田 修司 教授 Shuji Yamada Professor	結び目理論および3次元多様体論 Knot Theory and Theory of Three-Dimensional Manifolds
田中 立志 教授 Tatsushi Tanaka Professor	数論、多重ゼータ値 Number Theory, Multiple Zeta Values	渡辺 達也 教授 Tatsuya Watanabe Professor	変分的手法による楕円型偏微分方程式の研究 Research on elliptic PDEs by the variational method
濱野 佐知子 教授 Sachiko Hamano Professor	多変数関数論、ポテンシャル論 Function theory of several complex variables, Potential theory	伊藤 悠 准教授 Yu Ito Associate Professor	確率解析、ラフパス解析 Stochastic analysis, Rough path analysis
三好 博之 教授 Hiroyuki Miyoshi Professor	理論コンピュータ科学および他分野との境界領域、圏論、計算の哲学 Theoretical Computer Science and related topics, Category Theory, Philosophy of Computation	西 慧 准教授 Kei Nishi Associate Professor	反応拡散系にみられる局在解のダイナミクス Dynamics of localized patterns in reaction-diffusion systems

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- 離散時間マルコフ連鎖のマルテン境界について
- Minimal speed selection for the Lotka-Volterra competition model with Allee effect
- 多重ゼータ値の関係式の根付き木写像を用いた解釈と考察
- 多重ゼータ値の山本積分の代数的解釈およびt-多重L値の定義と代数的定式化
- トールック Fano 多様体のコホモロジー剛性問題について
- On the stability analysis for the Kirchoff-Plateau Problem
- Buckling in three dimensional space by the direct method of calculus of variations
- 3次元凸多面体のδ-列の特徴付けについて
- Leinsterのweak ω-categoryのω-equivalenceについて
- ジョーンズ多項式の値が自明な絡み目のそれに等しいサテライト絡み目とそのパターン絡み目について
- 一次元単純ランダムウォークZに対するCM-Z 過程のマルコフ性について
- 2次元固有値の最適化問題
- 侵入過程に現れる餌食・捕食者モデルの進行波解
- 多重ゼータ値の双対公式導出問題とq-多重ゼータ値の積分表示について

取得可能な専修免許状

■中学校教諭専修免許状(数学) ■高等学校教諭専修免許状(数学)

修了者数(2022年度)

■修士(数学) 1名

物理学専攻 Physics Course

自然の摂理を探求し、物の理を究める

物理学とは、我々を取り巻いているあらゆる自然、つまり物(もの)の理(ことわり)を究める学問です。そこにどんな法則が働いているのかを探求し、原理を突きつめるのが物理学です。そして研究対象の物とは、素粒子から原子・分子、固体、さらに天体・宇宙までと多様であり、研究分野や研究方法はこの物のスケールで大まかに分類できます。本研究科の物理学専攻は、国内外の研究機関とも連携しています。

物理学専攻の特色

魅力のある、最先端の教育研究環境

物理学専攻では、基礎科学を推進する立場から、現代のさまざまな技術革新を支える物質科学、地球環境・気象、及び世界の成り立ちの神秘に挑む宇宙物理学にわたる幅広い研究分野があります。天体観測装置をはじめとして、先進的実験機器を備えて研究教育を行っています。さらに、国内の放射光装置を使った物質科学の研究、国外の天文台を利用した研究等、国内外での研究交流も盛んです。また、日本原子力研究開発機構関西光科学研究所との連携大学院の科目を開講しています。大学院生への研究指導はマン・ツー・マンで行われ、恵まれた環境にあります。そのため自ら隠れた才能を引き出すことができ、未知への挑戦ができます。大学院修了者は、民間企業の研究開発に従事する者、さらに研究を続ける者、教職に従事する者がいます。

伝統ある天文学で最先端の開発

物理学専攻では、ミクロからマクロ、すなわち素粒子から宇宙まで多岐にわたる高度な専門知識を学びます。特に、本学の創設者が天文学者の荒木俊馬であることから、天文学の研究には伝統があり、2009年に私立大学では最大級の神山天文台が完成。大学院でも天体観測に関する研究に利用しています。2012年には、研究開発グループが、国内最高性能を誇る天体観測装置「LIPS(リップス)」の開発に成功しています。



研究紹介 Research

山縣 淳子 教授

原子核中におけるハドロン の性質に関する理論研究

我々の身の回りの物質はすべて原子でできており、原子の中心には陽子と中性子からなる原子核が存在しています。例えば、陽子6つと中性子6つで炭素原子核、陽子8つと中性子8つで酸素原子核など、陽子数と中性子数の様々な組み合わせの原子核があります。

当研究室では、陽子や中性子、そしてそれらの内部に存在する素粒子「クォーク」の種類を入れ替えたハドロンに関する理論研究を行っています。ハドロン の性質を探ることで、自然界に存在する4つの力(強い力、弱い力、電磁気力、重力)のうち「強い力」の理解を深めることができます。特に、原子核に陽子・中性子以外のハドロンを入れたとき、そのハドロンがどう振る舞うか、に興味を持っています。このような状態は地球上に自然に存在することはありませんが、世界中の高エネルギー実験施設で検証することができ、さらには遠く離れた天体「中性子星」の内部に存在する可能性もあります。

理論研究では、コンピュータを使ってプログラムを作成・実行し、高エネルギー実験や宇宙の天体内部でハドロンに起きていることを計算します。計算が予想通りいかないことも多いですが、計算結果が実験の観測結果を再現したときは、自らの手で自然を少し理解したということなので、何ものにも代え難い感動が得られます。

Inquiring the Law of Nature, Mastering the Law of Physics

The field of physics pursues the law of nature, i.e., the law of physics, and explores the principles how the nature works. The field has a wide variety of materials, ranging from particles, atoms, molecules, solids, and celestial objects/space, and the research field and its methodology are generally classified into these scales.

Physics Course Graduate Program Description

Attractive and Leading-edge Education and Research Environment

Physics Course works to advanced basic science and studies a wide range of academic area such as material science, global environment, meteorological phenomena, and astrophysics, attempting to explore how the nature had been created and to support various contemporary technological innovations. We conduct research and education using our leading-edge experiment equipment, such as astronomical observatory. Furthermore, our collaboration with domestic and overseas researchers includes material science research using synchrotron facility in Japan and overseas astronomical observatories. We offer graduate-level courses, jointly with Synchrotron Radiation Research Center, Japan Atomic Energy Research Institute. Our graduate students receive individualized supervision from their academic advisers, enabling them to undertake challenges in their research toward the unknown field and enhancing their uncultivated potential. Our graduates engage in research and development at private firms, continue their research, and become an educator.

Leading-edge Development in Astronomy, since the Founding

The Physics Course graduate students learn advanced specialized knowledge on a micro and macro scale, from particles to space. Astronomy has a long tradition since our establishment, as Dr. Araki Toshima, the KSU founder, was an astrophysicist. In 2009, Koyama Astronomical Observatory, the largest telescope at a private university in Japan, was established. In graduate research, the Observatory is used for astronomical observation. In 2012, the Division's research and development group succeeded in establishing "LIPS", the astronomical observatory instrument with the highest quality in Japan.



修了生 INTERVIEW

株式会社ウイルテック プログラマー・システムエンジニア
中澤 大樹さん
理学研究科 物理学専攻 博士前期課程 2019年度修了

ものごとくに疑問を抱き解決する力で、仕事力を高める

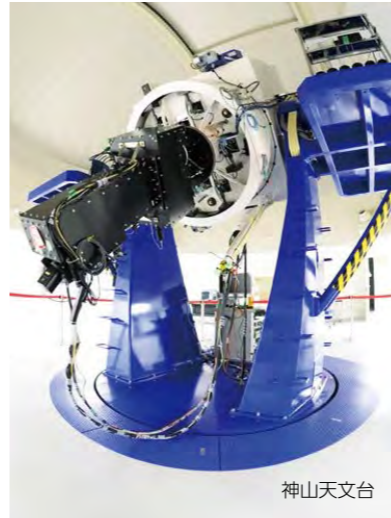
学部での研究をより深め、自身の能力を向上させたいと思い進学しました。大学院では、理論的に数式を使って物理を解明していくという「第一原理計算」の分野で、主に相対論的な多電子系を対象とした、第一原理計算が可能な数式を立て、その数式を解くプログラムを開発し、シミュレーションを行うという研究を行いました。

大学院は徹底した少人数教育のため、指導教員だけでなく、他の教員とも議論する環境があり、学びの幅が大きく広がりました。

大学院での学びを通して「物事への疑問を抱く力」「疑問を解決する力」が向上しました。また、社会人となって、大学院で培われた「思考力」「試行力」「実行力」が周囲と比べて秀でていて感じています。

物理学や数学の論理的な思考力は、物事を捉える時に汎用できます。プログラマーにとって論理的な思考力は欠かすことができません。また、仕事で未知への挑戦が要求されたり、長時間かけた事が無意味になったりすることもあります。これらへの精神的な耐性も大学院での経験が活かしています。新しいプログラミング言語の習得も、大学院で様々なプログラミング言語に触れることができたおかげで、容易に感じることができました。将来は、アプリケーション開発やソフトウェア開発を通して、数値計算技術に秀でたエンジニアになりたいと思っています。

大学院での時間は一瞬です。時間を大切に、充実した大学院生活を過ごしてください。



神山天文台

TOPICS

神山天文台の最新天体観測機器研究開発プロジェクトに参加

神山天文台で開発を行った天体観測装置WINERED(近赤外線高分散分光器)の研究開発グループに、理学研究科の大学院生も参加しています。本学に設置された神山天文台では、こうした世界トップレベルの装置開発を大学院の研究活動と連携して実践しています。装置開発を通じて様々な技術を身につけ、困難を克服して目標達成を体験することは、教育的にも大変意義のあることです。

JAXAと連携大学院協定を締結

物理学専攻には、金星探査機「あかつき」や、今後打ち上げが予定されている火星衛星探査機MMX、木星圏探査機JUICE、彗星探査機Comet Interceptorなど、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の太陽系探査計画(後者二つはJAXAと欧州宇宙機関との国際共同ミッション)に深く関わっている教員が複数名在籍しています。JAXAと連携大学院協定を締結したことにより、本学およびJAXAの教員が連携して大学院生の研究活動をサポートできるようになりました。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

伊藤 豊 教授 Yutaka Itoh Professor	NMR/NQR法を用いた物性研究 NMR/NQR studies of magnetism and superconductivity	高谷 康太郎 教授 Koutarou Takaya Professor	地球流体力学、異常気象、気候変動の研究 Geophysical Fluid Dynamics, Extreme climate, Climate variability
内田 和之 教授 Kazuyuki Uchida Professor	計算物質科学、ナノサイエンス Computational Materials Science, Nano-Science	谷川 正幸 教授 Masayuki Tanigawa Professor	分光学の基礎、光学結晶、ナノ構造 Fundamentals of Spectroscopy, Optical materials, Nanostructures
大森 隆 教授 Takashi Ohmori Professor	電気化学技術による環境問題への取り組み Clean Energy Technology of Global Warming	新山 雅之 教授 Masayuki Niiyama Professor	特異な構造を持つハドロンに関する実験研究 Experimental study of exotic hadrons
河北 秀世 教授 Hideyo Kawakita Professor	銀河系の化学進化、太陽系の起源 Chemical evolution of the Galaxy, origin of the solar system	山縣 淳子 教授 Juniko Yamagata-Sekihara Professor	媒質中におけるハドロン の性質に関する理論研究 Theoretical research on hadron properties in nuclear medium
岸本 真 教授 Makoto Kishimoto Professor	超高空間分解能観測による巨大ブラックホール系探査 Supermassive black hole systems through super high spatial resolution observations	山上 浩志 教授 Hiroshi Yamagami Professor	強相関磁性f電子系化合物の電子構造の理論的研究 Theoretical Research on Electronic Structure of Strongly-Correlated f-Electron Systems
佐川 英夫 教授 Hideo Sagawa Professor	惑星大気・表面環境の観測的研究 Observational study of planetary atmosphere	米原 厚憲 教授 Atsunori Yonehara Professor	重力レンズ天文学 Gravitational Lensing Astronomy
下村 晋 教授 Susumu Shimomura Professor	X線散乱による構造物性研究 Research on Structural Properties of Condensed Matter using X-ray Scattering Techniques	岩下 靖孝 准教授 Yasutaka Iwashita Associate Professor	ソフトマターの実験研究 Experimental Research on Soft Matter
鈴木 信三 教授 Shinzo Suzuki Professor	炭素ナノ構造体の物理化学 Physical Chemistry of Carbon Nanostructures	小郷原 一智 准教授 Kazunori Oghara Professor	火星大気の統計解析、気象学における深層学習の応用 Statistical analysis of the Mars atmosphere, Deep learning applications in meteorology
瀬川 耕司 教授 Kouji Segawa Professor	トポロジカル物質の実験研究 Experimental research on topological materials	齊藤 国靖 准教授 Kuniyasu Saitoh Associate Professor	非平衡物理学 Non-equilibrium Physics
高木 征弘 教授 Masahiro Takagi Professor	惑星大気の大循環、放射過程、地球流体力学 Dynamics and radiative transfer process of the Venus atmosphere	樋口 有理可 准教授 Arika Higuchi Associate Professor	太陽系と銀河系における小天体の軌道進化 Orbital evolution of small bodies in the Solar System and the Galaxy

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- 近赤外線高分散分光器WINERED:冷却系の安定化と分光系の高感度化
- 現代宇宙論 —ダークエネルギーの状態方程式の時間変動—
- EuX4 (X=Al,Ga) 及びSrAl4の変調構造と構造転移
- X線回折-散漫散乱によるFe2TiO4の構造転移の研究
- 強い重力レンズ現象を用いた宇宙論パラメータの推定
- 神山天文台におけるレンズクェーサーの可視光2色同時モニタリング観測
- TiO2 光触媒への鉄イオン吸着に関する研究
- 磁極反転を記述する2次元結合スピモデル
- 赤外線用イメージングレーティングの開発:
- 赤外線光学材料における微弱減光の常温及び極低温環境下での精密測定
- 古典新星V5587Sgr低分散分光観測および測光観測 —再増光メカニズムの解明に向けて—
- 重力マイクロレンズ 現象の観測による系外惑星探査とGPUを利用したデータ解析の高速化
- 遅い新星V2676 Ophの爆発初期における過渡的な分子外層の形成
- Garradd彗星の近赤外高分散分光観測 —近日点通過後の分子組成比—

取得可能な専修免許状

- 中学校教諭専修免許状(理科)
- 高等学校教諭専修免許状(理科)

修了者数(2022年度)

- 修士(物理学) 8名
- 博士(物理学) 1名

Division of Frontier Informatics

先端情報学研究科

Frontier Informatics Course
[Master's Program]
[Doctoral Program]

先端情報学専攻
[博士前期課程・博士後期課程]

情報学の新たな分野に挑戦する技術者・研究者を育てる

情報関連技術の進展は急速であり、学んだ知識はすぐに古びてしまいます。そのような中で重視されるのが、応用力。学んだことをいかに応用して活かしていくか。本研究科では、次々と出てくる新しいことに興味を持って挑戦していく気概のある人材を育成しています。教員と一緒に議論しながら研究を進めていくことで、高度な応用力・研究開発能力を身につけていくのです。本研究科では、「やってみないとわからない」という新分野に取り組む本当の面白さを堪能できるでしょう。

研究科の特色

情報分野の先端領域を学ぶ

①高度情報化社会を支える科学とテクノロジー、②グローバル社会のための情報ネットワーク、③人間とIT環境のコミュニケーションの3分野を中心に、情報学関連分野の先端領域の研究を進めています。教員はいずれも第一線で活躍している研究者であり、取り組んでいる研究テーマも多様。先端分野であるため、大学院生も対等に研究開発ができます。数々の受賞歴(※TOPICS参照)が証明するように、本研究科の教員と大学院生の研究は高く評価されています。

充実の実験研究設備

高性能のサーバ群や最新鋭のパソコン類の他、実験住宅、BMI実験室、脳波実験室、視覚心理実験室、メディアスタジオ、ファブスペース、サーバネットワーク室等の実験研究設備が充実しています。様々なコンピュータ技術だけでなく、脳科学等を含めた関連技術の研究が一拠点で実施可能です。また、デジタルコンテンツの制作やデジタル工作機器を用いたものづくりなど、幅広い活動が可能になっています。

コンピュータの基盤技術から脳科学に至る幅広い研究分野

ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク等の基盤技術、応用技術、それらの人間との関わり等、幅広い研究を行っています。例えば、人間の感覚や感情を工学的に扱う感性工学、個人適応型のWebアプリケーション、人間にとって使いやすいシステム、脳と情報機器のインタフェース等の研究があります。このため、脳科学や心理学等も含めて各分野を横断する幅広い研究を行っており、「実験住宅」等で近未来住宅の姿を示しています。



研究紹介 Research

井上 博之 教授

自動運転車やコネクティッドカーの情報セキュリティ

最近の自動車は、常にインターネットのような広域網を通じて他の機器と通信するコネクティッドカー(つながる自動車)となっています。また、自動運転車では大量のセンサー情報を処理したり、道路や他車の最新情報を入手したりするためにネットワークに接続することは当然となっています。コネクティッドカーは、身の回りのいろいろなモノが相互につながるIoT機器の一つとみなすことができ、ネットワークからの攻撃や不正アクセスなどを防ぐための仕組みが不可欠となってきます。現代の自動車には、100個以上の小さなコンピュータが搭載されており一つ一つに別々のソフトウェアが搭載され、またサーバでの処理やスマートフォンとの連携など、ソフトウェアの重要性がかつてないほど高くなっています。

研究室では、ネットワークと組み込みシステムそして情報セキュリティに関する技術を研究しており、大学院では学部で学んだ通信やネットワークに関する知識、コンピュータのハードウェアやOSの知識、プログラミングの知識などを前提に、ネットワークにつながる自動車や家電製品を使いやすく安全にするためのアーキテクチャやプロトコルについての研究開発を行っています。また、実車を使った実践的な実験や評価を行うことで、IoTデバイスにおける脆弱性分析やサイバー攻撃・防御手法に関する様々な研究を通じてセキュリティの重要性を学んでいくことができます。



Fostering Engineers/Researchers Initiating Challenges toward Information Science Frontiers

Learned knowledge gets quickly outdated as the field of Information Technology is rapidly advancing. In this field, applying the knowledge does matter. The Division fosters committed professionals undertaking challenges with curiosity in emerging new developments. Actively working together with faculty members, students will acquire advanced applied research and development ability. The Division offers genuine attraction to engage in a new field where nobody knows unless one does try out.

Frontier Informatics Course Graduate Program Description

Learning the frontier field of Information

Our main three research fields include (1) science and technology that support advanced information society, (2) information network in a globalized world, and (3) communication between humans and IT environments. Our faculty members undertake these frontier fields in Information Science and also leading-edge research in a variety of fields. As we work on the frontier fields, our graduate students have equal opportunities in research and development. The faculty members and our graduate students' research are well recognized with many awards (see TOPICS).

High-Quality Experiment and Research Facility

In addition to high-performance web servers and state-of-the-art computers, the division is well equipped with a smart home laboratory, brain-machine interface (BMI) laboratory, electroencephalogram laboratory, audio-visual psychology laboratory, media studio, fab-space and server network room. Research on a wide range of computer technologies and neuroscience related research is carried out on our well integrated campus. In addition, an array of activities such as the production of digital content and manufacturing using digital craft equipment are also possible.

Wide range of research fields from Computer's Fundamental Technology to Neuroscience

We conduct a wide range of research on fundamental and applied technology such as hardware, software, and networks, and ways in which these technologies affect humans. For example, some of our research includes (1) Kansei engineering, research on human sensibility and emotions, (2) Individually Adapted Web application, (3) User-friendly systems, and (4) interfaces between brain and information devices. These works involve cross-cutting interdisciplinary approach, from information science to neuroscience and human interfaces. Our smart home laboratory, "KSUji Home" explores near future housings.



修士生 INTERVIEW

株式会社JR西日本ITソリューションズ システムエンジニア
田上 諒さん
先端情報学研究科 先端情報学専攻 博士前期課程 2018年度修了

人生100年時代、日々チャレンジしていきたい

もともと情報分野が好きで、本学のコンピュータ理工学部(当時)に所属していました。学部3年次生の頃までは進学を迷いましたが、「もっとこの分野にのめりこんで、新しい発見をしてみたい」「研究を楽しんでみたい」と思い、大学院への進学を決めました。大学院では、おもに「質問応答」という分野の研究をしました。「自然言語処理」という、人間が使う言葉(自然言語)をコンピュータに理解させる研究です。人間の質問に対して、コンピュータが自動的に正確な解答を導くための方法を、大学入試の世界史の問題や、英文の4択問題などを題材に研究しました。大学院時代には評価型ワークショップ(コンペのようなもの)や、国内外の様々な研究会議にも参加して研究成果を発表し、賞をいただくこともできました。研究会議の場では最新の動向をキャッチアップしたり、著名な先生や企業の方とも交流できたり、非常に良い刺激となりました。学術論文誌に研究成果を残すことができたのも、とても良い経験です。大学院での学びを通して、研究分野の専門スキルはもちろん、伝えたいことを発表するスキルも非常に向上しました。人生100年時代といわれています。そんな中で、情報分野の世界で、少しでも自分の名前を残せるように、日々チャレンジしていきたいと思っています。生活のあらゆるところに情報技術が活用され、便利さを実感しているでしょう。その原点は、多くの研究者たちの研究の成果です。ぜひ大学院へ進学して、これからの世の中を創っていく研究者の1人として活躍してください!

TOPICS

情報処理学会

2022年度 山下記念研究賞 坂本 唯人(博士前期課程2年次)

International Society of Affective Science and Engineering

The ISASE Presentation Encouragement Award
守留 俊輝(2022年度 博士前期課程修了)

第30回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ(WISS2022)

チームラボ賞 滝沢 力(博士前期課程2年次)

インターネットアーキテクチャ研究会

学生研究奨励賞 吉田 晴信(2022年度 博士前期課程修了)
斎藤 龍之介(博士前期課程2年次)・田中 里咲(博士前期課程1年次)

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduate-school/)の大学院教員紹介を参照してください。

赤崎 孝文 教授 Takafumi Akasaki Professor	中枢神経と相互作用するブレインマシン インターフェイスの研究 Brain/Computer Interface that Interacts with Central Nerves System	田中 宏喜 教授 Hiroki Tanaka Professor	脳の視覚情報表現に関する研究 Processing and representation of visual information in the brain
秋山 豊和 教授 Toyokazu Akiyama Professor	分散システムの構築・運用技術に関する研究 Research on construction and operation technology for distributed systems	玉田 春昭 教授 Haruaki Tamada Professor	(1)ソフトウェアの保護手法に関する研究 (2)プログラムの可読性、理解容易性に関する研究 (1) Software protection methods against illegal analysis and theft. (2) Readability and Understandability evaluation of programs.
伊藤 浩之 教授 Hiroyuki Ito Professor	脳の視覚情報処理メカニズムの生理学的および数理科学的研究 Physiological and Theoretical Research on Visual Information Processing in the Brain	中島 伸介 教授 Shinsuke Nakajima Professor	(1)ユーザの状況を考慮した情報推薦技術に関する研究 (2)情報技術に基づくヘルスケアサポートに関する研究 (1) Recommender System by Considering Users' Context (2) Healthcare Support based on Information Technology
井上 博之 教授 Hiroyuki Inoue Professor	ネットワークにつながる組み込みシステムの情報セキュリティ Cyber security for networked embedded systems	新實 治男 教授 Haruo Niimi Professor	(超)並列コンピュータシステムの構成方式に関する研究 Architectures of Parallel Computers and Parallel Computing
大本 英徹 教授 Eitetsu Oomoto Professor	オブジェクト指向マルチメディアデータベースに関する研究 Research on Object-Oriented Multimedia Databases	林原 尚浩 教授 Naohiro Hayashibara Professor	耐故障性を有する分散アルゴリズム/システムの研究 Dependable Distributed Systems
岡田 英彦 教授 Hidehiko Okada Professor	計算知能に関する研究 Computational Intelligence	平井 重行 教授 Shigeyuki Hirai Professor	(1)ユビキタスコンピューティング環境とユーザインタフェース (2)アート・デザインなど表現のためのインタラクティブコンテンツ制作支援環境 (1) Ubiquitous Computing Environments and User Interfaces (2) Design and Authoring Tools for Interactive Arts and Entertainment Systems
荻野 晃大 教授 Akihiro Ogino Professor	個人のWell-beingを向上させるための感性システムの研究 Research on Affective/KANSEI system for encouraging personal well-being	水口 充 教授 Mitsuru Minakuchi Professor	(1)ヒューマンコンピュータインタラクション (2)エンタテインメントコンピューティング (1) Research on human-computer interaction (2) Research on entertainment computing
荻原 剛志 教授 Takeshi Ogihara Professor	コンポーネントの柔軟な結合に基づくソフトウェア開発手法 Software development methods based on adaptable binding of components	宮森 恒 教授 Hisashi Miyamori Professor	人と共生するAI応用のための自然言語と映像の理解・生成・検索 Understanding, generation, and search of natural language and visual information for implementing AI working in harmony with people
奥田 次郎 教授 Jiro Okuda Professor	脳活動計測による人間の高次認知情報処理の研究とその工学的・社会的応用 Functional neuroimaging of higher brain functions in humans	吉村 正義 教授 Masayoshi Yoshimura Professor	安全性、保水性、可用性、信頼性を有する計算機に関する研究 Research on computer systems for safety, maintainability, availability and reliability
蚊野 浩 教授 Hiroshi Kano Professor	デジタル画像処理やインターネットに基づく映像メディア技術の研究 Digital Image Processing, Image Media Based on Internet	赤岩 香苗 准教授 Kanae Akaiwa Associate Professor	可積分系数学の工学的応用および行列固有値問題の解法に関する研究 Applied Integrable Systems and Matrix Eigenvalue Problems
河合 由起子 教授 Yukiko Kawai Professor	ビッグデータ分析に基づく情報検索・推薦・可視化の研究開発 Big Data analysis for Information Retrieval and Visualization	永谷 直久 准教授 Naohisa Nagaya Associate Professor	(1)感覚知覚拡張に基づく人間拡張技術 (2)VRシステムを用いた昆虫の行動生態解明 (1) Augmented human performance based on improving perceptions (2) Clarification of behavioral ecology by using virtual reality systems
川村 新 教授 Arata Kawamura Professor	人間やロボットの聴覚を支援するデバイスの研究開発 Development of hearing aid devices for human and robots	棟方 渚 准教授 Nagisa Munekata Associate Professor	ヒューマンコンピュータ(ロボット)インタラクション、 パイオフィードバックのエンタテインメント応用 Human-Computer (Agent) -Interaction, Entertainment contents based on user's attitude using biosignals
小林 聡 教授 Satoshi Kobayashi Professor	非古典論理とその計算機科学への応用 Non-Classical Logics and Their Application to Computer Science	安田 豊 准教授 Yutaka Yasuda Associate Professor	分散ネットワークシステムの研究 A research on distributed networking system
瀬川 典久 教授 Norihisa Segawa Professor	無線センサネットワークと情報可視化 Wireless Sensor Network and Information Visualization		

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- 生体情報を用いるゲームコントロールシステムの構築
- 実竿を用いたフィッシングシミュレータの開発
- 運転者の危機意識の抽出を目的とした運転特性の分析
- 振動呈示によるエンタテインメント性と表象との関係性に関する研究
- 顧客のアプリケーション単位で制御可能なSR-TEフレームワークにおけるコントロールプレーン設計とPer-Flow Steering実装方式の検討

- 論理圧縮を用いた機能修正回路による論理ロック手法
- 頸部表面筋電位を用いた舌・呼吸・頸部動作の識別
- 人工視覚システムの開発に向けたマウス脳皮質から得られる視覚情報の復号化
- スロット属性を考慮した実空間のユーザ行動分析に基づく潜在的興味推定手法

取得可能な専修免許状

■高等学校教諭専修免許状(情報)

修了者数(2022年度) ■修士(先端情報学) 22名 ■博士(先端情報学) 2名

Division of Life Sciences

生命科学研究所

生命科学の最先端の研究を展開

生命科学は近年、最も急速に進歩した学問領域であり、クローン動物や遺伝子組換え生物、多能性幹細胞を生み出す技術が現実のものとなり、生活にさらに密接に関わるようになりました。本研究科では、微生物から植物、昆虫、脊椎動物まで多様な生物種を研究対象とし、生命の基本的なしくみや人類を脅かす疾患、感染症等を分子、細胞、個体の各レベルで解析します。

研究分野

生命科学研究所の教育課程は、生命科学、および生命科学に関連した人文・社会科学に及ぶ研究分野を包括します。1専攻1コースにより、高度な専門的知識や能力の修得を目指しながら、関連する分野の基礎的素養を養い、幅広い視野を身につけていきます。

生命を多層的な統合システムとしてとらえた分子レベルの研究

細胞や組織レベルにおける生体分子の機能を理解し、その統合システムとして生命をとらえます。また、疾病をシステムの破綻という観点でとらえ、その原因、治療法を研究します。

生命医学の知識をもとにした人と動物の生理機能と病態に関わる研究

微生物や疾患モデル動物といった個体レベルを対象に、感染症、がん、糖尿病、精神疾患等の発症の成り立ちを解明し、生活環境の安全性の担保、医薬品開発を目指して研究します。

ゲノムと地球環境を軸とする生命と環境のインターフェイスの研究

動物、植物を含めて、遺伝学、生態学、生物環境学等のマクロな観点から生命科学を分析します。さらに、育種や資源開発等の生命資源の活用戦略について研究します。

生態系を生かした自然環境から創出される社会課題に関わる研究

生物多様性の成り立ちと仕組み、生態系を生かした社会づくり、地域資源の循環や食・農の価値創出等に関わる、社会調査や課題解決、持続可能な制度設計について研究します。



研究紹介 Research

木村 成介 教授

形を変える植物から知る生物と環境の関係

移動することができない植物は、周囲の環境変化に機敏に反応して生育しています。水陸両生植物の *Rorippa aquatica* は、生育環境に応じて葉の形態を変化させる異形葉性という興味深い性質を持っています。この植物は、湖の周りなどの水辺に生育しており、陸上では普通の形の葉を発生しますが、水没すると葉身が針状になったギザギザの葉を発生します。異形葉性は、水の抵抗を軽減することなどに役立っていると考えられ、生物の適応進化を理解する上で重要な現象です。私たちは、トランスクリプトーム解析などの手法により異形葉性のメカニズムや進化の背景を明らかにしようとしています。

私の研究室では教員が学生に「教える」のではなく、一緒に「考える」ことを大切にしています。大学院で研究するということは専門性を高めるということですが、コミュニケーション能力や課題解決力など社会で活躍するために必要な力を養うこともできます。研究に打ち込むことで、未知なるものに迫ることの面白さを感じてもらいたいと思っています。



陸上での形



水中の形

Life Sciences Course [Master's Program/Doctoral Program]

生命科学専攻 [博士前期課程・博士後期課程]

Life Sciences is one of the most dynamically advancing academic fields in recent years. Technologies producing cloned animals, genetically modified plants, and pluripotent stem cells, have become available and are increasingly related to our life. Division of Life Sciences works on various species ranging from microorganisms, plants, insects, and vertebrates and analyzes basic mechanisms of life and diseases at the molecular, cellular, and organismic levels.

Research Field

The education program at the Division of Life Sciences encompasses the life sciences, and the humanities and social sciences related to the life sciences. In one major course, students aim to acquire advanced specialized knowledge and abilities and cultivate basic knowledge related to the interdisciplinary field, broadening their horizons.

Research on molecular mechanisms maintaining multi-layered life systems
Students understand biomolecular functions primarily at the cellular and organizational levels to comprehend life as a unified system. They also learn to see illness from the perspective of system failure and study the causes and methods of treatment.

Research on the physiological and pathological functions of human and animal based on knowledge of biomedical sciences
Students study to elucidate the pathogenesis of infections, disease, cancer, diabetes, psychiatric disorders, etc., and the safety of living environment and the treatments using microorganisms and disease model animals.

Research on the interface between life and the environment, focusing on genomes and the global environment
Students learn to analyze life sciences from a macro perspective that includes genetics, bionomics, and bioenvironmental sciences, addressing both plant and animal studies. Research is also conducted on bioresource utilization strategies that include breeding and resource development.

Research related to the social issues created by the natural environment utilizing ecosystems
Students investigate social survey, business solution, and sustainable institutional design related to mechanisms of the biodiversity, the creation of a society that utilized the ecosystem, the recycling of local resources, and the value in food and agriculture.



修士生 INTERVIEW

第一三共 RDノバール株式会社
山田 等仁さん
生命科学研究所 生命科学専攻 博士後期課程 2022年度修了

未知のテーマに取り組むやりがいと面白さを満喫

私は、細菌が作る毒素タンパク質の構造解析を研究していました。用意したタンパク質を最新の技術によって電子顕微鏡で観察し、その画像から構造を解析します。毒素タンパク質の構造がわかれば、それに対する薬剤の開発や、毒素として機能するメカニズムの解明につながります。学部生のときは実験が簡単すぎて退屈に感じた人も、大学院では、学部時代に固めた基礎をもとに、いよいよ「The 研究」といった感じの未知のテーマに取り組むことができます。最先端に立ってグングン進んでいく手ごたえがあり、やりがいや面白さもぐっと増すことでしょう。私の場合は、誰も見たことがないタンパク質の構造を、世界で初めて目の当たりにすることができるところに魅力を感じました。

私は修士課程のとき、海外の一流の雑誌に研究を掲載していただきました。その経験から、真剣に研究に取り組むことによって、自分の可能性をいくらかも広げることができるのだと実感しました。また、研究成果が評価され、早々に大手製薬企業に内定をもらうことができました。研究以外の面においても、博士後期課程に進むと、自分で判断して行動しなければならぬ機会が格段に増え、総合的な能力が培われたと思います。誰にとっても大学院進学が一番いい選択だとは断言できませんが、研究に興味がある人は全力で取り組んでみることをお勧めします。人生は自分だけのものなので、やりたいことには貪欲に! 夢の実現のために必要なことを考えて積極的に行動していきたいでしょう。

研究科の特色

魅力的な教育環境・最先端の研究環境

29名の専任教員が徹底した少人数教育を施します。教員の研究テーマも多岐にわたっており、自分の希望に合う研究を行うことができます。また、教員間の共同研究も活発であり、幅広い分野の知識・実験技術を修得することができます。さらに、多くの特論科目も開講されており、生命科学の広い領域を学ぶことができます。また、優れた研究実績を持ち、学会でも活躍している研究指導教員のもと、高度な研究を行うことができます。研究設備も充実しており、分子から個体に至るまで、様々な実験を行うことが可能です。また、学外の研究者のセミナーも多く開催され、最先端の研究に触れることができます。

教員研究テーマ Research Theme (s)

●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduate-school/)の大学院教員紹介を参照してください。

板野 直樹 教授 Naoki Itano Professor	がん休眠治療の基盤研究とアンチエイジング技術の創成 Development of Innovative Technologies for Healthy Longevity	武田 洋幸 教授 Hiroyuki Takeda Professor	ゼブラフィッシュ、メダカを用いた脊椎動物の発生原理の研究 Research on vertebrate development using zebrafish and medaka as models
潮田 亮 准教授 Ryo Ushioda Associate Professor	(1)タンパク質の一生:細胞内タンパク質の品質管理機構と疾患 (2)分子シャペロンやレドックス因子による細胞機能制御 (1) Life of Proteins: Protein Quality Control and Diseases (2) Functional regulation by molecular chaperones and oxidoreductases in mammalian cells	棚橋 靖行 准教授 Yasuyuki Tanahashi Associate Professor	平滑筋収縮調節メカニズムおよび平滑筋機能疾患の病態解明 Regulation of Smooth Muscle Contractility and Associated Functional Disorders
遠藤 斗志也 教授 Toshiya Endo Professor	細胞がタンパク質と脂質からミトコンドリアをつくる仕組み How to Make Mitochondria from Proteins and Lipids	千葉 志信 教授 Shinobu Chiba Professor	タンパク質の合成・成熟・局在化に関する研究 Molecular Biology of Protein Biogenesis and Localization
加藤 啓子 教授 Keiko Kato Professor	情動系神経回路の応答機構に関する研究 Study on Molecular Mechanisms Underlying Neural Circuits Plasticity in the Limbic System.	津下 英明 教授 Hideaki Tsuge Professor	毒と薬の機能理解のためのタンパク質構造生物学 Functional Understanding of Toxins and Drugs by Protein Structural Biology
金子 貴一 教授 Takakazu Kaneko Professor	ゲノム情報比較を基盤とした環境微生物の多様性に関する研究 Genomics of Plant-Associated Microbes	寺地 徹 教授 Toru Terachi Professor	高等植物オルガネラの分子遺伝学 Molecular Genetics of Higher Plant Organelles
川上 雅弘 准教授 Masahiro Kawakami Associate Professor	生命科学の伝え方と研究ガバナンスに関する研究 Research on Science Communication and Research Governance	中村 暢宏 教授 Nobuhiro Nakamura Professor	細胞内オルガネラによる発生制御システムの研究 Study on the Roles of Organelles in the Developmental Systems
川根 公樹 准教授 Kouki Kawane Associate Professor	細胞死の視点から行う腸管の恒常性と疾患の研究 Molecular Mechanism and Physiological Role of Epithelial Cell Death in Digestive Tract	西田 貴明 准教授 Takaaki Nishida Associate Professor	グリーンインフラの評価と計画策定に関する研究 Research on green infrastructure evaluation and planning
河邊 昭 教授 Akira Kawabe Professor	植物を材料としたDNA変異の維持機構の解明 Research on the Maintenance Mechanisms of DNA Variation in Plant Species	西野 佳以 准教授 Yoshii Nishino Associate Professor	ウイルス性神経・精神疾患の発症メカニズムに関する研究 Molecular Mechanism of Viral Neurological and Neurobehavioral Disease
木村 成介 教授 Seisuke Kimura Professor	植物の葉の形態の多様性と表現型可塑性の研究 Plant Ecological Evolutionary Developmental Biology	野村 哲郎 教授 Tetsuro Nomura Professor	動物の育種ならびに保全における集団遺伝学の応用 Applications of Population Genetics to Animal Breeding and Conservation
黒坂 光 教授 Akira Kurosaka Professor	神経発生における糖転移酵素の機能解析 Functional Analysis of Glycosyltransferases in Neural Differentiation	前田 秋彦 教授 Akihiko Maeda Professor	病原微生物の生態学および分子生物学的解析 Ecological and Molecular Biological Studies of Pathogenic Microbes
佐藤 賢一 教授 Ken-ichi Sato Professor	生殖細胞、初期胚およびがん細胞の生物学的機能に関する研究 Biological Function of Gametes, Early Embryos, and Cancer Cells	三嶋 雄一郎 准教授 Yuichiro Mishima Associate Professor	個体発生過程におけるRNA制御原理 Molecular Mechanisms of RNA Regulation During Embryogenesis
三瓶 由紀 准教授 Yuki Sanpei Associate Professor	持続可能な地域づくりにむけた社会システム Sustainable land-use planning in urban and rural area	本橋 健 教授 Takeshi Motohashi Professor	高等植物葉緑体における機能制御 Functional Regulation in Chloroplast of Plants
白鳥 秀卓 教授 Hidetaka Shiratori Professor	器官形成における形態変化の分子機構 Molecular Mechanism of Morphological Changes in Organogenesis	横山 謙 教授 Ken Yokoyama Professor	(1)エネルギー変換系膜タンパク質の構造・機能の解明 (2)生体エネルギー変換と老化・寿命に関する研究 (1) Molecular Mechanism of Energy Conversion Enzymes (2) Studies of Relationship Between Energy Metabolism and Cellular Aging
高桑 弘樹 教授 Hiroki Takakuwa Professor	鳥インフルエンザウイルスの生態と病原性発現機構に関する研究 Studies on the Ecology and Pathogenic Mechanisms of Avian Influenza Viruses	若林 憲一 教授 Ken-ichi Wakabayashi Professor	(1)緑藻類の光反応行動の分子機構と生理的意義 (2)真核生物繊毛の運動調節機構 (1) Molecular Basis and Physiological Significance of Photo-Induced Behavioral Changes in green algae (2)Regulatory mechanisms for Eukaryotic Ciliary Motility
高橋 純一 准教授 Jun-ichi Takahashi Associate Professor	昆虫の機能利用および絶滅危惧動物の保全 Molecular Ecology and Applied Entomology		

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修士論文テーマ例

- モヤモヤ病遺伝子ミステリンによる脂肪代謝制御
- 新たなエビプラスト幹細胞株i22を用いて中内胚葉の発生の機構を探る
- 機能未知のミトコンドリア局在タンパク質C2orf47の欠失ゼブラフィッシュを用いた機能解明
- 葉緑体形質転換ベクターに自律複製能を付与するタバコ葉緑体DNA断片の探索
- ナス属近縁野生種における細胞質雄性不稔原因遺伝子の分布の調査およびナスの雄性回復遺伝子の推定

取得可能な専修免許状

- 中学校教諭専修免許状(理科)
- 高等学校教諭専修免許状(理科)
- 修了者数(2022年度)
- 修士(生命科学) 18名
- 博士(生命科学) 2名

Life Sciences Course Graduate Program Description

Productive Education Environment / Leading-edge Research Environment

The Division has 29 faculty members and provides small class education. Our faculty members' specialized fields widely vary and students are able to conduct their research of interest. Our faculty members collaborate in their research, providing students with a wide range of knowledge and experiment skills. Furthermore we offer special courses, broadening student's knowledge in the field. And, Our graduate students are able to conduct advanced research supervised by the faculty members who are distinguished scholars and actively contribute to an academic society. Our research facility is well equipped with a wide range of experiments, from molecules to individuals. We often invite outside researchers and organize seminars, providing our students with rich exposure to the leading-edge research.

Division of Economics Correspondence Education

経済学研究科(通信教育課程)

Economics Course
[Master's Program]
| 経済学専攻[修士課程]

仕事をしながら学位を取得できる

経済学研究科(通信教育課程)は、通信教育で「修士(経済学)」を取得できる全国唯一の大学院として2007年に開設しました。本研究科の最大のメリットは、官公庁、企業、自営業など、実社会で働いている社会人の方々が今の職場を離れることなく、高度な研究ができることです。実際のところ、大学院生には、官公庁や金融、メーカー勤務やコンサルタント、自営業など様々な職場の方々がおられ、学修・研究に邁進されています。

本研究科は、大学院生それぞれが直面する経済的課題について、理論と実証の両面から分析できる、高度な判断力と実践力を備えた人材育成を目指しています。

社会人をサポートする研究環境

大学院に通うには、仕事との両立が問題になってきます。本研究科では、e-mailを活用した学修・研究によって、時間的な問題を解消。また、8月と2月に各2日間行うスクーリング(面接授業)も、研究指導教員との個別相談で日程を決定するなど、フレキシブルに学べる環境を整え、キャリアアップを目指す社会人をサポートしています。

e-mailも対面授業もマン・ツー・マンで

研究指導は主にe-mailを活用し、専門とする研究テーマの指導については、スクーリングでの面接授業も含め、原則「教員1名に対し大学院生1名」のマン・ツー・マン指導を行っています。大学院生のレベルや問題意識に応じて、2年間の計画を立てて学修・研究を進め、徹底した指導を受けられるのが特徴です。

忙しい社会人には長期履修制度

実社会で2年以上の実務経験を有する社会人を対象としているため、2年間での学修・研究が難しい社会人向けに用意された「長期履修制度」があります。3年かけて無理なく修士の学位を取得することができます。その場合、2年間の学費が3年間に按分されます。

経済学部以外の出身者でも安心の導入教育

大学卒業後、経済学から遠ざかっていた方や、経済学部以外の出身の方も無理なく、効率よく学修・研究ができるよう、経済学の基礎である「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「計量分析」の基礎的科目を設けるなど、導入教育を提供しています。

経済的負担のバックアップも充実

通学制よりもリーズナブルな学費(通学制の約50%)を設定し、経済的負担の軽減を図っています。また、本研究科は、厚生労働省の「一般教育訓練給付制度」の対象講座の指定を受けています。詳しくは、厚生労働省のホームページをご確認ください。

専修免許状の取得

既に中学校教諭(社会)及び高等学校教諭(公民)の一種免許状を取得されている場合、それぞれの「専修免許状」を取得することができます。

取得可能な専修免許状

- 中学校教諭専修免許状(社会)
- 高等学校教諭専修免許状(公民)



「実務」と「学問」に橋を架ける

近年、情報化・グローバル化の進展により仕事・業務が日々高度化しています。また、日本社会の少子高齢化にともない、人々の働き方も多様化し、仕事に対する考え方も変わりつつあります。このような状況では、実務で直面するさまざまな課題について大学で改めて専門的に学び直すことを希望する方も多くおられるでしょう。しかしながら、多くの社会人にとって「働きながら学ぶ」には、時間の制約など高いハードルがあるという現実があります。このような社会のニーズを受けて、経済学研究科(通信教育課程)はより多くの人に「働きながら学ぶ」機会を提供したいと考えます。

本研究科の目的は「高度な専門職業人」の育成です。「高度な専門職業人」とは、仕事の現場(「実務」)で直面する課題についてより専門的に深く研究し(「学問」)、研究によって得られた知識・技能(「学問」)を現場(「実務」)に還元・活用することができる人材のことです。本研究科が「実務」と「学問」との架け橋になることを願っています。

研究科長 加茂 知幸

教員研究テーマ Research Theme (s) ●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

■ 労働経済学 梶谷 真也 教授	個人の時間配分と生産性・健康資本の格差、中高齢者の就業と認知能力・健康	■ 日本経済論 塩津 ゆりか 教授	人口減少社会での社会保障・地域公共財の多様な担い手育成と経済成長
■ 産業連関論 小田 秀典 教授	成長分配理論、実験経済学、実験哲学、計算可能性	■ 経済政策論 寺井 晃 教授	マクロ経済学と日本経済、物価・期待インフレ率研究
■ 産業組織論 北村 紘 教授	市場成長の動学分析、垂直的取引制限の経済理論分析	■ 環境経済学 武田 史郎 教授	排出量取引制度等の地球温暖化対策の分析、応用一般均衡分析
■ 企業経済論 加茂 知幸 教授	一般均衡理論、数理経済学	■ 地域経済学 寺崎 友芳 教授	都市構造分析、地域経済分析
■ 企業経済論 沈 政郁 教授	上場企業の長期データを用いた実証分析(Family Business)	■ 地域経済学 広田 茂 教授	地域経済学、健康と社会経済因子の研究
■ 中小企業論 大西 辰彦 教授	地域産業が抱える諸問題について、中小企業論の視点から研究	■ 証券投資論 西村 佳子 教授	金融教育と家計の資産選択行動
■ 日本経済史 山内 太 教授	日本における近世・近代村落社会経済史		

経済学研究科(通信教育課程) 学位取得までの流れ(参考)

年次	学期区分	月	授業内容等	
			講義科目	演習科目
1年次	春学期	4月初	入学式、オリエンテーション、履修計画相談	
			経済学基礎科目(2単位)及び特論A(2単位)×4科目 〔内、1科目は研究指導教員が指定する特論A〕	研究指導教員担当の特論演習Ⅰ(2単位)
		4月末 7月末	レポート×4回(5科目分)	特論演習Ⅰレポート×4回
	秋学期	7月 8月	スクーリング2日間	
			経済学基礎科目(2単位)及び特論B(2単位)×3科目 〔内、1科目は研究指導教員が指定する特論B〕	研究指導教員担当の特論演習Ⅱ(2単位)
		10月末 1月末	レポート×4回(4科目分)	特論演習Ⅱレポート×4回
2年次	春学期	1月 2月	スクーリング2日間	
			特論A(2単位)×1科目	研究指導教員担当の特論演習Ⅲ(2単位)
		4月末 7月末	レポート×4回(1科目分)	特論演習Ⅲレポート×4回
	秋学期	7月 8月	スクーリング2日間 (研究成果中間報告会)	
			特論B(2単位)×1科目	研究指導教員担当の特論演習Ⅳ(2単位)
		10月末 1月末	レポート×4回(1科目分)	
	1月中旬	学位申請		
	2月初	特定課題研究報告書または修士論文審査会・口述試問		
	3月末	学位授与式【修士(経済学)学位授与】		

修了生 INTERVIEW



金融機関 証券部
小林 直子さん
経済学研究科(通信教育課程)
経済学専攻 修士課程 2022年度修了

海外在住でも時差の壁を越えて挑戦!

私は文学部出身で金融機関に勤務していましたが、自分が本当にやりたい仕事をするには経済学の修士が必要と痛感し、働きながらも学べ、文学部出身でも入学可能な経済学研究科に入学しました。海外在住ですが、オンラインやメールで授業や課題に関する質問ができるので、とても助かりました。京都産業大学大学院で経済の基礎から最新の深い知識まで身につけることができ、入学前のコンプレックスが自信に変わりました。

大学院では、気候変動関連の金融面でのリスクに関する研究に取り組みました。近年各地で異常気象が観測されるようになり、その原因は地球の温暖化にあることがわかってきました。温暖化を防ぐためには、脱炭素化を進めなければなりません。それに伴い、新しい社会・環境に適さなくなった製品や技術の価値が低下するというリスクがあります。また、海面上昇による沿岸不動産の資産価値の低下や、自然災害によるサプライチェーンの寸断による業務・物流の停止といったリスクもあります。これらは企業や金融機関が考慮しなければならない問題であり、興味深いテーマでした。

現代は情報過多な時代ですが、大学院で経済・社会を見る目が養われ、公正な情報を見極める力がついたと感じています。今後は、持続的発展を目指し、未来に向けた生活の質の向上に貢献できる新しいプロジェクトの促進に携わりたいと考えています。

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修了者数(2022年度) ■修士(経済学) 9名

Division of Kyoto Studies Correspondence Education

京都文化化学研究科(通信教育課程) | Kyoto Studies Course [Master's Program] | 京都文化化学専攻[修士課程]

京都から未来をリードする人材を養成

現在、国内外から京都及び京都文化が注目されています。1200年以上の歴史のなかで京都は、日本の伝統的な文化・芸術を育む一方、海外からの先進的な文化や技術を取り入れ、新たな文化や産業も生み出してきました。本研究科では、多様な京都文化のうち、歴史・文学・文化財・伝統産業の4つを切り口に、専門的な視点・方法・知識を学び、調査・分析を行う中から、京都をはじめ、これからの地域社会・国際社会で活かせる知恵や技能を身に付けます。

研究科の特色

文化財や伝統産業に関する実学を深く学ぶ

京都には、今も多くの文化財、伝統工芸、美術工芸、その他の伝統産業が息づいています。本研究科では、これらに直接関わってきた教授陣から、文化財の保存と活用、伝統産業の展開などについて学術的な立場から指導を受け、調査・分析・研究を行います。

歴史や文学について、新たな文献学の手法で研究する

多様な京都文化を成り立たせた背景を調査するには歴史研究が、美意識をはじめ人びとの感性を理解するには文学研究が重要です。本研究科では、電子化をはじめとする研究環境の進展をふまえ、歴史・地理・文学に関する最新の文献学の手法を学び、京都文化を探究します。

通信教育で時間・場所を問わずに学び、ステップアップ

本研究科は、情報環境の発達をふまえ、社会人でも時間や場所にしばられず、学ぶことができる通信教育課程です。3年・4年かけて修了を目指す長期履修制度を含め、計画的に研究を進め、専門性を身に付け、ステップアップを目指します。

段階的に京都文化を掘り下げるカリキュラム

カリキュラムは、効果的に学習が進められるよう、通信教育とスクーリング(面接授業)を組み合わせで設計されています。基礎科目で研究に必要な基礎的な知識と研究方法を修得し、展開科目で専門性を深め、演習科目で修士論文の作成に取り組みます。演習では、研究テーマにより実地調査や制作体験等のフィールドワークも実施。京都を舞台にアクティブに学びます。



京都から、地域社会・国際社会の未来をつくる人材を

平安京建都以来、1200年の長きにわたって都市であり続けた京都。この地で育まれた文化は、京都という地域の文化であると同時に、日本のスタンダード文化の母体として捉えることが可能です。もちろん列島には多様な自然や、それを利用した人々の生業や生活の歴史が豊かに育まれてきました。一方でそうした多様な文化をゆるやかにまとめあげてきたスタンダード文化もあり、それを揺籃した最大の中心地がここ京都です。

世界の歴史都市は、自らの都市機能を変化させながら存続してきました。京都も同様に、政治都市、商工業都市、宗教都市、観光都市、学問府、と様々な機能を身にまといながら現在に至っています。ただそれが、山城盆地の北隅という、そして広くもない空間において千年以上にわたって続いてきたことに一種の奇跡を感じます。ヒューマンサイズの空間で、京都内外の人々が交り合

いながら、建築、美術、工芸、思想、文芸、芸能、宗教、儀礼、祭礼等、有形・無形の文化を生み出してきたわけですから。そして現在でもなお継承し続ける実態を目の当たりにできることは、京都で文化を学ぶ最大の魅力であり、世界中の研究者や観光客を惹きつけてやみません。

本研究科では、文献史学、文学といった文献学的な学びと、文化財、伝統産業、パフォーミング・アーツといった実学的な学びを通して、京都を文化的に理解する視点、方法、知識を習得します。その学びのプロセスをとおして、京都文化、ひいては日本文化の維持や発展を担う専門人材、地域社会や国際社会のなかで課題解決の現場に携わることのできる研究者や職業人を育成します。他に類のない本研究科で、京都文化学を専門とする多彩な教授陣とともに学んでみませんか。

研究科長 村上 忠喜

教員研究テーマ Research Theme (s) ●詳細は京都産業大学大学院ホームページ(https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/)の大学院教員紹介を参照してください。

石川 登志雄 教授	京都の社寺・文化財に関する研究	ペレックア ディエゴ 准教授	京都の伝統芸能に関する研究(演出、伝承、国際化などの諸相)
雲岡 梓 准教授	日本の古典文学(近世文学・女流文学)の研究	マレス エマニエル 准教授	日本庭園の歴史的・比較研究/文化と自然の相互作用に関する研究
小林 一彦 教授	日本の古典文学(和歌文学・中世文学)の研究	村上 忠喜 教授	祭礼文化を中心とした都市民俗研究/文化遺産研究
笹部 昌利 准教授	幕末維新政治史の研究、日本近世・近代地域史の研究	吉野 秋二 教授	日本古代都市(平安京)の研究、出土文字資料の研究
瀧本 昌久 教授	日本近現代史、同和問題の歴史的研究	若松 正志 教授	近世の京都に関する研究、日本近世対外関係史研究

※2024年度研究指導教員については、「2024年度 大学院学生募集要項」にてご確認ください。

修了者数(2022年度) ■修士(京都文化学) 4名

京都文化化学研究科(通信教育課程) 学位取得までの流れ(参考)

年次	学期区分	月	授業内容等		
			研究基礎論、特殊講義	特論演習(研究指導を含む)	
入学前	3月	4月	履修計画相談、入学式、オリエンテーション、履修登録		
1年次	第1セメスター	4月	京都文化化学研究基礎論A(またはB) 特殊講義A×3科目 [うち1科目は、研究指導教員担当の特殊講義A]	研究指導教員担当の京都文化特論演習I	
		5月上旬 8月上旬	京都文化化学研究基礎論A(またはB) レポート(4回) 特殊講義Aレポート(3回)	京都文化特論演習Iレポート(3回)	
		8月		京都文化特論演習I スクーリング2日間	
	第2セメスター	成績表配付、履修登録			
		10月初	京都文化化学研究基礎論B(またはA) 特殊講義B×3科目 [うち1科目は、研究指導教員担当の特殊講義B]	研究指導教員担当の京都文化特論演習II	
		10月下旬 1月下旬	京都文化化学研究基礎論B(またはA) レポート(4回) 特殊講義Bレポート(3回)	京都文化特論演習IIレポート(3回)	
2月			京都文化特論演習II スクーリング2日間		
2年次	第3セメスター	成績表配付、履修登録			
		4月初	特殊講義A×2科目	研究指導教員担当の京都文化特論演習III	
		5月上旬 8月上旬	特殊講義Aレポート(3回)	京都文化特論演習IIIレポート(3回)	
	8月		京都文化特論演習III スクーリング2日間		
	第4セメスター	成績表配付、履修登録			
		10月初	特殊講義B×1科目	研究指導教員担当の京都文化特論演習IV	
10月下旬 1月下旬		特殊講義Bレポート(3回)	京都文化特論演習IVレポート(3回)		
10月下旬 11月上旬			京都文化特論演習IVスクーリング2日間(中間報告会、論文指導)		
1月下旬 2月上旬			京都文化特論演習IVスクーリング2日間(公聴会、修士論文または特定課題研究報告書審査会)		
3月末	学位授与式【修士(京都文化学)学位授与】				

想定される活躍の場

官公庁	文化行政の企画立案力を身につけ、国際発信力をアップ	伝統産業・美術工芸・伝統芸能等	業界の指導的立場となる職業人に	地域社会	地域の文化芸術活動を支える文化ボランティアに
観光業界	京都の文化財を活用した観光振興	博物館・美術館・大学等	文化財保護・活用を推進する研究職に		



修了生 INTERVIEW

京都府教育委員会非常勤職員
京都府文化財保護指導委員
山口 美乃さん
京都文化化学研究科(通信教育課程)
京都文化化学専攻 修士課程 2020年度修了

新しいものに挑戦してみる姿勢と意欲を体得

京都検定1級合格を機に、京都産業大学日本文化研究所に特別客員研究員として1年間に在籍した経験から、京都文化化学研究科への進学を決めました。大学院では、鎌倉時代の女流作家、阿仏尼の作品が、近代古典文学教育においてどう位置付けられ、どのように変遷していったか、また、そこから窺える近代古典文学教育の特質について研究しました。現役大学時代から著しく進歩を遂げた研究環境の変化に戸惑いもありましたが、先生方のご指導で研究方法の基本を一から学ぶことができました。大学院生活を通して、年齢を言い訳に逃げがちだった新しいことや苦しいことにも、まずは挑戦してみる姿勢と意欲が身につきました。少人数で横のつながりが強く、生涯つきあえる仲間ができたのも収穫です。大学院での学びは、京都府文化財保護指導委員としての仕事や諸団体での活動にも役立っています。明確な目的意識を持って進学することにしたことはありませんが、「何となく面白そう」と軽い気持ちで始めたことが一生の課題となることもあります。難しく考えず、挑戦してみたいはいかがでしょうか。



大学院生 INTERVIEW

高橋 雅史さん
京都文化化学研究科(通信教育課程)
京都文化化学専攻 修士課程 2年次

伝統文化のように先人の研究を継承していく喜び

禅宗寺院の法衣や仏具の作製・修復の仕事をしていましたが、その後、世界中の寺院や宗教施設、工芸所を見て回る旅をして、これまでの知見をもとに深く追求したいという想いが芽生え、京都文化化学の研究を志しました。現在は、「日本における禅宗様式の仏教法具伝来とその展開」をテーマに研究しています。いつ、どのようにして、禅宗の法具は日本にやってきて、そこからどのような系譜を辿って日本独自の形になったのか、そして今も使われ続ける理由を探っています。日本の伝統文化は我が国独自の財産であり、その価値を保護する制度とともに、価値を認知してもらうための公平かつ適切な情報の開示が求められています。文化が長い年月をかけた多くの人の手によって受け継がれてきたように、私たちが行う研究もまた、先人たちの研究成果を継承したうえで、新しい価値や知識を生み出し、社会に提供することに意義があります。そのことに魅力を感じ、喜びを持って取り組むことが大切だと思います。

リサーチ・アシスタント(RA)制度(博士後期課程対象)

博士後期課程の大学院生に本学が行う研究プロジェクト等に参画する機会を提供することにより、本学の研究支援体制の充実及び若手研究者の養成を促進することを目的とした制度です。RAに採用された大学院生は、受入研究員のもとで、補助的業務を行う研究補助者として従事します。

2022年度 リサーチアシスタント研究課題

タンパク質膜透過機構の動的構造解析	細胞脱落の実行機構の解析
近赤外線高分散ラボ・大口径望遠鏡による世界最深・赤外線高分散分光天文学の実現	レドックス制御を介したATF6制御機構の解明
ソーシャル・ジオデータに基づく実空間移動支援基盤の実現	初期発生過程におけるリボソーム多様性の解明
スマートホームのHUB:レクリエーションの援助役としてのロボット開発	

ティーチング・アシスタント(TA)制度

大学院生が授業の教育補助業務を行うことにより、学部生等に対してより一層の教育効果を上げ、教育研究の指導者となるための学習機会を得ることを目的とした制度です。採用期間は学期単位となり、1人の業務遂行限度は原則週6時間以内です。

学会発表・参加のための旅費等支援制度

学会への発表や参加の機会を増やし、発表・参加を通じて大学院生の教育研究の活性化及び充実を図ることを目的として、それに要した旅費・宿泊費等を支援する制度です。

2022年度 国内学会発表・学会参加支援実績

学会名	学会名	学会名
2022年度人工知能学会全国大会(第36回)	エンタテインメントコンピューティング2022	電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会2022年度
第69回日本実験動物学会総会	第31回日本がん転移学会学術集会・総会	第45回日本分子生物学会年会
第68回日本生化学会近畿支部例会	アジア経営学会第29回全国大会	九州経済学会第72回大会
第22回日本蛋白質科学会年会	第27回日本バーチャルリアリティ学会	生命ソフトウェア・感性工房・而立の会 合同シンポジウム2022
Smart Sensing 2022	FIT2022第21回情報科学技術フォーラム	WISS 2022 第30回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ
第18回21世紀大腸菌研究会	第60回日本生物物理学会年会	ハードウェアコンテストGUGEN2022
SNPD2022-Summer	日本育種学会第142回講演会	JST CREST「共創型音メディア機能拡張」中間シンポジウム2022
マルチメディア、分散、協調とモバイルDICO2022シンポジウム	日本気象学会2022年度秋季大会	2022年度 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会シンポジウム
第15回小胞体ストレス研究会	make.ctrl.Japan4	第21回日本データベース学会年次大会
2022年電気学会 電子・情報・システム部門大会	第3回細胞死コロキウム	
Joint Conference on Language Evolution 2022	第95回日本生化学会大会	

論文投稿掲載費の支援制度

掲載紙名
Progress of Theoretical and Experimental Physics

海外学会発表のための旅費等支援制度

海外で開催される学会において研究発表を行う大学院生を支援する制度です。

2022年度 海外学会発表実績

学会名	開催地
International Conference on Health Informatics and Medical Systems(HIMS)	アメリカ(オンライン)
The ACM International Conference on Mobile Human-Computer Interaction	カナダ
The 21th IFIP INTERNATIONAL CONFERENCE ON ENTERTAINMENT COMPUTING	ドイツ
International Conference on Computing, Networking and Communications (ICNC2023)	アメリカ
IEEE 41st International Conference on Consumer Electronics	アメリカ

海外留学のための支援金制度

大学院生の海外留学に際して、支援金を給付することにより経済的負担を軽減し、学業に専念できることを目的に助成する制度です。
※他の学費減免制度、奨学金制度の適用を受けている場合、授業料相当額を限度とします。

専門性の追究で大きく広がる就職の門戸 就職サポート体制も充実

「大学院は研究者になるための機関」、そのような認識を未だにもっていませんか？
高度な専門知識を得ることで、専門性を活かした様々な進路に進んでいる大学院生の割合が高くなっています。進路・就職支援センターでは一人一人の進路・就職を充実させるサポートを行っています。

POINT 大学院生に特化した実践的な支援を行い、学部生との違いを明確にする

就職対策講座

大学院生に特化した実践的な進路・就職支援を実施。自己理解、エントリーシート(応募書類)の書き方、ビジネスマナー、面接対策、仕事理解(研究)などについて集中的に学ぶことができます。就職活動を行うにあたっての必要な知識や考え方を修得させ具体的な対策につなげています。



個別面談(三者面談)

大学院生、研究指導教員、進路・就職支援センタースタッフの三者面談を実施。修了後の希望進路を明確にし、大学院での活動および研究内容の指導に役立てることを目的としています。学生一人一人の考えや思いをじっくりと聞き出すことで、各個人の将来設計とそれに見合う具体的な行動を促進しています。

進路・就職支援プログラム

■学内企業セミナー

約400社におよぶ企業の人事担当者や本学卒業生を招き、業界・仕事の実情を知ることができるほか企業の採用情報も入手可能なセミナーを学内で実施しています。企業の方々から直接お話を聞くことで、志望のきっかけづくりになっています。

■模擬面接

進路・就職支援センタースタッフによる、本番さながらの模擬面接を実施。学部生を含め毎年約600名が体験。面接を受ける心構えやマナーだけでなく、自分の言葉で話すことで、面接における表現方法を磨きます。面接後には一人一人へのフィードバックも行い、学生の自己理解につなげています。



■UIターン就職支援

出身地に戻って働きたい、地方に根ざした企業に勤めたい、そんなUIターン就職へのニーズに対応し、本学では全国各地の企業や自治体とのつながりを強めています。出身学生数の多い自治体のUIターン就職担当者を学内に招き、企業の情報提供や説明会なども開催。UIターン就職の促進を積極的に行っています。

■京産ナビ(就職支援システム)

求人情報・インターンシップ求人情報・就職活動体験記・OBOGメッセージ・公務員採用試験情報など、就活をすすめるうえで大変有益な情報を得ることができる京産大生限定の就職支援システムです。

■対象別支援プログラム

学生個々のニーズに沿った支援を行っています。専攻分野に応じたセミナー・企業説明会、公務員セミナーなど。きめ細やかな支援を行います。

■個別面談

各自の適性に則した進路先を学生と一緒に考え、志望先が見つかるよう、個別での相談やアドバイス、情報提供などの手厚いサポートを行っています。

2022年度 修了生の主な進路

就職 ナカライテスク(株)、NECネットエスアイ(株)、NTTコミュニケーションズ(株)、京セラ(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、神島化学工業(株)、(株)新日本科学、ソフトバンク(株)、(株)日立システムズ、三菱電機ソフトウェア(株)、村田機械(株) 他

進学 [京都産業大学大学院] 先端情報学研究所博士後期課程、生命科学研究科博士後期課程

入学金・学費など

下表は2023年度入学生の学費一覧です。
2024年度入学生の学費については、決定次第HPIに掲載します。

■ 博士前期課程・修士課程 (単位:円)						
研究科名	費目 年次	入学金	授業料	実験実習費	教育充実費	合計
経済学研究科 マネジメント研究科 法学研究科 現代社会学研究科 外国語学研究科	1年次	200,000	528,000	—	163,000	891,000
	2年次	—	528,000	—	163,000	691,000
理学研究科 先端情報学研究科 生命科学研究科	1年次	200,000	694,000	102,000	172,000	1,168,000
	2年次	—	694,000	102,000	172,000	968,000
経済学研究科 (通信教育課程) 京都文化学研究科 (通信教育課程)	1年次	100,000	264,000	—	81,000	445,000
	2年次	—	264,000	—	81,000	345,000

■ 博士後期課程 (単位:円)						
研究科名	費目 年次	入学金	授業料	実験実習費	教育充実費	合計
経済学研究科 マネジメント研究科 法学研究科	1年次	200,000	528,000	—	163,000	891,000
	2年次	—	528,000	—	163,000	691,000
	3年次	—	528,000	—	163,000	691,000
理学研究科 先端情報学研究科 生命科学研究科	1年次	200,000	694,000	102,000	172,000	1,168,000
	2年次	—	694,000	102,000	172,000	968,000
	3年次	—	694,000	102,000	172,000	968,000

(注1) 入学金は、入学年度のみ徴収します。ただし、本学卒業生(卒業見込者を含む)または本学に3年以上在学し引き続き本大学院に入学を許可された者の入学金は100,000円(経済学研究科(通信教育課程)、京都文化学研究科(通信教育課程)は50,000円)とします。また、本大学院の前期課程または修士課程を修了した者が引き続き後期課程へ進学する場合は、入学金は不要とします。
(注2) 特殊な実験・実習については、上記のほか、別に定めるところにより、更に必要実費を徴収することがあります。
(注3) 学費などは、春学期分(入学年度は入学手続時、次年度以降は4月)・秋学期分(10月)の2期に分割して徴収します。
(注4) 上記以外に、学生健康保険互助会費として入学年度は3,500円(年額)を、次年度以降は2,500円(年額)を代理徴収します。(経済学研究科(通信教育課程)、京都文化学研究科(通信教育課程)を除く。)

本学独自の奨学金(給付)

大学院生の育成支援を目的とした「大学院生支援奨学金」を設けています。これにより多くの大学院生の経済負担が軽減され、研究や高度専門知識の修得に専念できます。この奨学金は、経済支援として当該学期の学費納付時に授業料から給付額を減じて給付します。

A. 京都産業大学大学院生支援奨学金

博士前期課程・修士課程(通信教育課程を除く)

博士前期課程・修士課程に入学を許可された者及び在学学生は、一律給付(A)を受けることができます。さらに、一般入試において成績が優秀であった者は、給付(B)を受けることができます。なお、給付を受けるには、申請書が必要です。

(A) 一律給付	(B) 成績優秀者に対する給付
対象 博士前期課程・修士課程の全員	対象 博士前期課程・修士課程の一般入試で入学を許可された者で成績優秀者
期間 1年(標準修業年限内において再申請可能)	期間 1年(標準修業年限内において再申請可能)
給付額 授業料10%相当額	給付額 授業料50%相当額 (授業料10%相当額の一律給付に授業料40%相当額を加えた額)

※社会人入試及び外国人留学生入試は対象から除く

博士後期課程	
対象	博士後期課程の全員
期間	1年(標準修業年限内において再申請可能)
給付額	授業料90%相当額

その他の奨学金制度

奨学金に関する質問や相談は「学生部」へお問い合わせください。

B. 日本学生支援機構大学院奨学金

第一種奨学金(無利子)と、第二種奨学金(有利子)の2種類があります。

貸与額(月額)	第一種奨学金 博士前期課程・修士課程 5万円・8万8千円 から選択 博士後期課程 8万円・12万2千円 から選択 第二種奨学金 5万円・8万円・10万円・13万円・15万円 から選択
募集期間	4月(家計急変の場合には随時出願が可能)
奨学生期間	採用年度から標準修業年限(継続審査あり)
応募条件	日本学生支援機構の定める「学力に関する基準」と「家計に関する基準」の両方を満たしていること。

C. 京都産業大学大学院貸与奨学金

経済的な理由により修学、研究が困難で、かつ日本学生支援機構第二種奨学金に出願し、基準を満たしているにも関わらず採用枠の関係で不採用となった学生に奨学金を貸与します。

採用人数	若干名
貸与額(月額)	博士前期課程・修士課程 6万円 博士後期課程 8万円
募集期間	4月(日本学生支援機構奨学金と同時募集)
奨学生期間	当該年度限り(毎年出願可能)
選考基準	所定の単位を修得または修得する見込みがあること。

D. 京都産業大学教育ローン利子給付奨学金

金融機関の教育ローンを利用して学費等を納入した学生に対し、その返済にかかる利子の全額または一部を奨学金として給付します。

採用人数	100名以内
給付額(年額)	上限5万円
募集期間	1月
奨学生期間	当該年度限り(毎年出願可能)
選考基準	日本学生支援機構の定める「家計に関する基準」を満たしていること。

E. 京都産業大学大学院特別貸与奨学金

家計支持者の死亡・失業・疾病・災害またはその他の理由により、学費納入が困難になった学生を対象に、半期学費相当額を上限に奨学金として貸与します。

採用人数	若干名
貸与額(月額)	半期学費相当額以内
募集期間	随時
奨学生期間	当該学期限り(在籍期間内1回)
選考基準	所定の単位を修得または修得する見込みがあること。

F. 京都産業大学応急育英給付奨学金

入学後において、主たる家計支持者の死亡、やむを得ない事情による失職または廃業、会社倒産、自己破産等により家計が急変した学生に奨学金を給付します。

採用人数	特に定めず
給付額(年額)	半期学費相当額以内
募集期間	随時(事由発生後原則3か月以内)
奨学生期間	当該学期限り(在籍期間内1回)

G. 京都産業大学災害給付奨学金

自然災害により被災した学費支弁者が災害救助法適用地域に在住しており、経済的理由により学費納入が困難な学生に奨学金を給付します。

採用人数	特に定めず
給付額(年額)	半期授業料相当額以内
募集期間	随時(災害救助法適用後12か月以内)
奨学生期間	当該学期限り

私費外国人留学生対象の授業料減免制度

私費外国人留学生対象の授業料減免制度に関する質問や相談は「国際交流センター事務局」へお問い合わせください。

H. 京都産業大学私費外国人留学生授業料減免

対象	博士前期課程・修士課程の私費外国人留学生(学内推薦入試で入学を許可された者を除く)
減免額	1学期間の授業料の40%相当額
採用期間	1学期間(標準修業年限内において再申請可能)

注:1. 在留資格が「留学」の者に限ります。
2. 所定の期間に「申請書類」を提出しなければなりません。
3. 大学院生支援奨学金(A)一律給付と併せて受給できます。

2023年度大学院入試日程

博士前期課程・修士課程

入試制度	入試日程			対象研究科							
	出願期間	試験日	可否結果	経済学研究科	マネジメント研究科	法学研究科	現代社会学研究科	外国語学研究科	理学研究科	先端情報学研究科	生命科学研究科
学内推薦入試	5/17(水)~5/25(木)	6/10(土)	6/26(月)	●		●	●	●	●	●	●
	1/22(月)~1/30(火)	2/10(土)	2/21(水)	●		●					
一般入試	7/20(木)~8/2(水)	9/9(土)	9/21(木)	●	●	●	●	●	● ^{※1}	●	●
	1/9(火)~1/17(水)	2/10(土)	2/21(水)	●	●	●	●	●	●	●	●
社会人入試	7/20(木)~8/2(水)	9/9(土)	9/21(木)	●	●	●	●	●	●	●	●
	1/9(火)~1/17(水)	2/10(土)	2/21(水)	●	●	●	●	●	●	●	●
外国人留学生入試	7/20(木)~8/2(水)	9/9(土)	9/21(木)	●	●	●		●	●	●	●
	11/2(木)~11/14(火)	12/9(土)	12/20(水)	●	●	●		●	●	●	●

※1 試験は9/8(金)・9/9(土)の2日間実施します。

博士後期課程

入試制度	入試日程			対象研究科					
	出願期間	試験日	可否結果	経済学研究科	マネジメント研究科	法学研究科	理学研究科	先端情報学研究科	生命科学研究科
一般入試(秋入学)	6/9(金)~6/19(月)	7/8(土)	7/24(月)					●	
一般入試	7/20(木)~8/2(水)	9/9(土)	9/21(木)					●	
	1/9(火)~1/17(水)	2/10(土)	2/21(水)	●	●	●	●	●	●
社会人推薦入試	1/9(火)~1/17(水)	2/10(土)	2/21(水)		●	●	●	●	●
外国人留学生入試	11/2(木)~11/14(火)	12/9(土)	12/20(水)	●	●	●	●	●	●

修士課程 通信教育課程

入試制度	入試日程			対象研究科	
	出願期間	試験日	可否結果	(通信教育課程)経済学研究科	(通信教育課程)京都文化学研究科
1次選考(書類選考)	12/21(木)~1/9(火)	—	1/22(月)		
2次選考(口述試問)	1/23(火)~1/30(火)	2/10(土)	2/21(水)	●	●

長期履修制度(博士前期課程・修士課程のみ)

制度概要

京都産業大学大学院では、次の方を対象とした長期履修制度を設けています。通常の2年で課程を修了するコース以外に3年又は4年の履修によって、仕事と研究を両立し教育課程を修了することができます。

対象者

- 有職者であって、職務上の事情により標準修業年限で修了することが困難な者
- 育児、介護等により、標準修業年限で修了することが困難な者

修業年限

経済学研究科(通信教育課程) 年単位で3年
上記以外の研究科 年単位で3年又は4年
※ただし、最長修業年限は3年コース、4年コースともに4年

お問い合わせ先

教学センター 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
 TEL. 075-705-1913

<https://www.kyoto-su.ac.jp/graduateschool/>

経済学研究科	TEL. 075-705-1452
経済学研究科 (通信教育課程)	
マネジメント研究科	TEL. 075-705-1454
法学研究科	TEL. 075-705-1458
現代社会学研究科	TEL. 075-705-1724
外国語学研究科	TEL. 075-705-1461
理学研究科	TEL. 075-705-1463
先端情報学研究科	TEL. 075-705-1989
生命科学研究科	TEL. 075-705-1466
京都文化科学研究科 (通信教育課程)	TEL. 075-705-1941

ACCESS

